

# 令和7年度 第1回市川市食育推進関係機関連絡会

日時：令和7年10月16日（木）

午後3時～5時

場所：保健センター4階大会議室

## 【次第】

司会 保健センター健康支援課長 高城 晃

### 1. 開会

2. 挨拶 保健部長 横山 京子

3. 代表者及び関係職員紹介 ※名簿別紙

### 4. 内容

（1）令和7年度市川市の食育推進について

（2）第4次市川市食育推進計画について

（食育に関するアンケート調査報告、中間評価）

（3）代表者及び関係機関等の取組紹介

（4）意見交換、その他

### 5. 閉会

## 市川市の食育の推進について

### (1) 令和6年度 食育の推進報告

- 食育関係課会議の開催（年5回） 5月、7月、10月、12月、3月
- 市川市食育推進関係機関連絡会 ※会議公開指針に基づく開催
  - 第1回 令和6年 7月11日 31名出席
  - 第2回 令和6年 11月14日 32名出席
- 食育関係課協同の取組
  - ・食育講演会 9月21日（土）保健センター  
「切りっぱなし野菜で栄養バランスアップ」  
講師 スポーツ料理研究家 村野明子氏  
参加者95名
  - ・食育展示
  - ・リーフレット「いちかわの食育探検」の配布（イベント、展示、保育園、窓口、幼児健診等）
  - ・広報いちかわ6月1日号「食育特集」  
「食べて健康 子どもから大人まで年代別に食事のポイントをご紹介」

### (2) 令和7年度 食育の推進報告および計画

- 会議予定等
  - ① 食育関係課会議の開催 年4回（5月、9月、12月、3月）
  - ② 市川市食育推進関係機関連絡会 年2回（10月16日、1月29日）

#### ○取組（広報活動、イベント、事業等）

- ① 広報活動
  - ・食育月間 6月2日（月）～6月30日（月）  
懸垂幕：第2庁舎 電子掲示板：第1庁舎 デジタルサイネージ掲示  
食育マグネット：公用車両貼付走行
  - ・広報いちかわ6月7日号「食育特集」  
「おいしく、かしこく野菜を食べよう」
  - ・食育展示 6月11日（水）～6月25日（水）生涯学習センター1階  
テーマ「いちかわの食育取組紹介」
  - ・食育の日PRシール、リーフレット「いちかわの食育探検」配布
  - ・市川市公式Web「適塩ヘルシーレシピ」更新

② 食育講演会 9月27日（土）市川市保健センター

- ・「元気が出る災害食」  
講師 鈴木佳代世子氏
- ・「エコノミークラス症候群予防の簡単体操」  
講師 (株) ティップネス インストラクター
- ・同時開催 食育展示

③ 食育関係課の事業等

健康支援課

依頼の栄養教育事業（自治会、婦人会等）

食生活サポーターの活動支援

（おとなの食育講習会、おやこの食育講習会、放課後保育クラブ健康教育、市民まつり、移動販売における食育啓発）

地域ケア会議に出席し栄養・食生活に関する助言

生活習慣改善講座

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業（シニアのための高血圧予防講座）

こども家庭相談課

パパママ栄養クラス・離乳食教室等の母子健康教育、依頼の栄養教育（こども館等）

農政課

市民農園、ふれあい農園 5月～10月、

おうちでちょっと菜園 5月～8月、

「市川のなし」フェア 8月、「市川のやさい」フェア 11月、

農水産まつり 12月

臨海整備課

魚のさばき方教室、いちかわ三番瀬まつり、

市内鮮魚店、行徳支所での市水産物販売（スズキ 6月、生ノリ 1月）、

学校給食での水産物利用、農水産まつりへの参加、ノリ漉きを行う

学校への支援

幼保施設管理課

各園の食育計画に基づいた取組（野菜の栽培、クッキング他）

季節感のある献立、伝承行事食、食育だよりによる情報提供

保護者の給食試食

レシピ動画掲載（テーマ：嗜むメニュー、人気のメニュー）

### 保健体育課

各学校の食育全体計画に基づいた取組

市川市ヘルシースクールプランでの食育の取組

学校給食を中心とした取組（地場産物の活用、お話給食、試食会他）

栄養教諭を中心に食育推進の取組、千産千消デー（千葉県産食材使用）

和食育の取り組み

### 清掃事業課

食品ロス削減の取組

フードドライブ、

出前授業「テーマ：ごみと資源物」（小学校・自治会からの要望で実施）

## 取組紹介

一般社団法人市川市医師会

一般社団法人市川市歯科医師会

市川市PTA連絡協議会

市川市私立幼稚園協会

市川市食生活サポート協議会

市川市漁業協同組合

千葉伝統郷土料理研究会

市川市農業協同組合

市川商工会議所

市川市消費者モニター友の会

社会福祉法人 市川市社会福祉協議会

千葉県市川健康福祉センター  
(市川保健所)

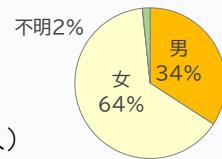
和洋女子大学

生産者代表

## 令和7年度「食育に関するアンケート調査」

### ◆ いちモニ(市川市 Web アンケート)制度

- ・ 調査期間 2025.6.17～30(14日間)
- ・ 調査対象者 いちモニ制度回答者
- ・ 設問数 26問(自由記載1問含む)
- ・ 回答数 2,407人(男性 822人 女性 1,545人 不明 40人)
- ※不明は、その他、回答しないを含む。
- ・ 年齢内訳

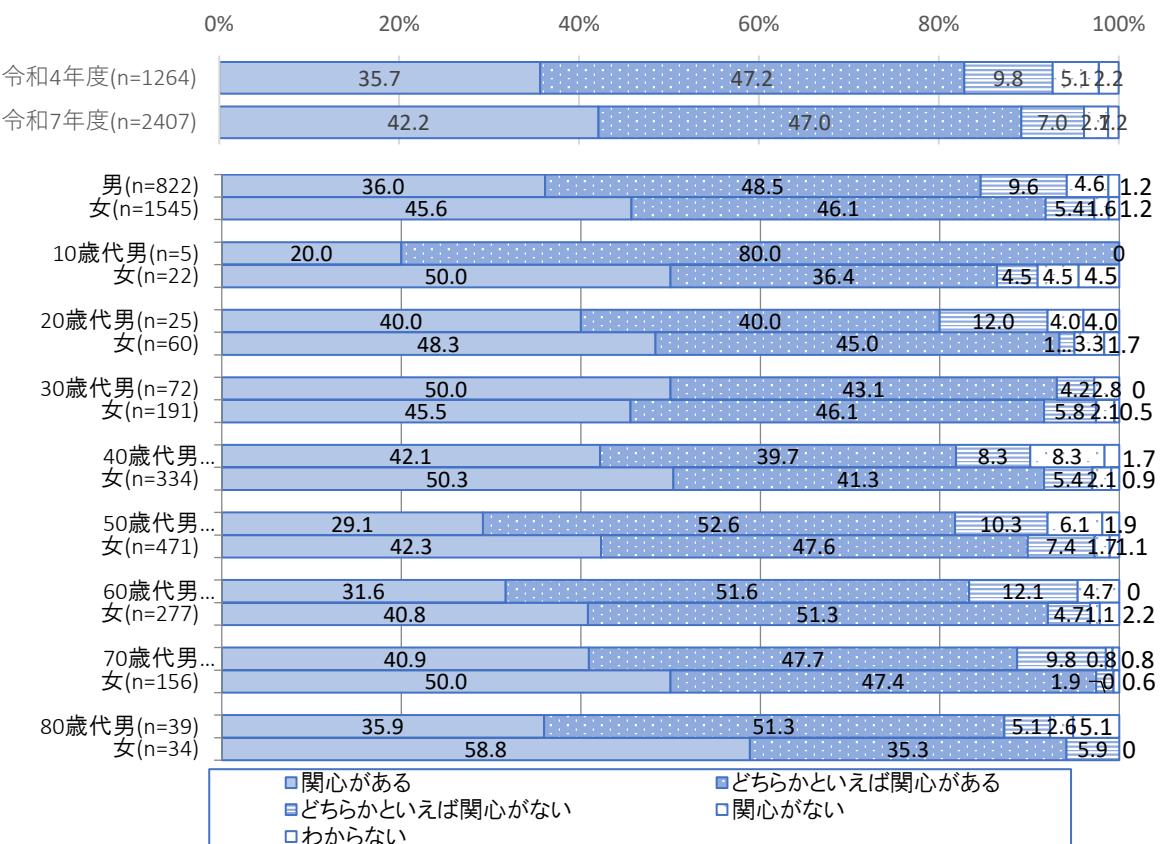


	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
合計	1	28	89	267	468	690	502	289	73
割合	0%	1%	4%	11%	19%	29%	21%	12%	3%

※数値は、小数点第2位を四捨五入しているため、必ずしも100%とはならない。

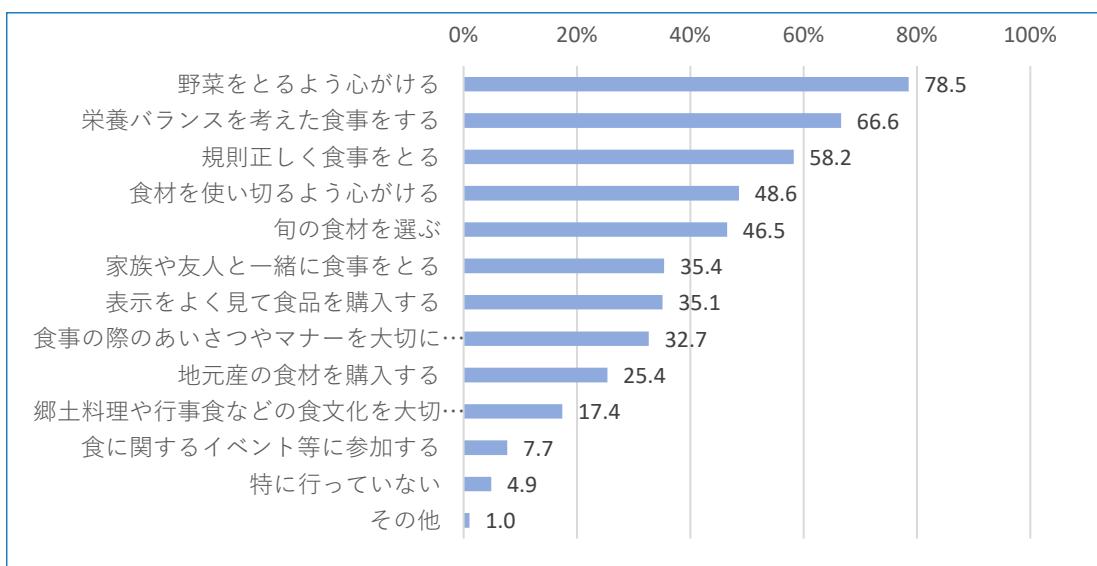
※10歳未満については、回答数が少なく現状把握が難しいため対象外とする。

### 問1 あなたは「食育」に関心がありますか。



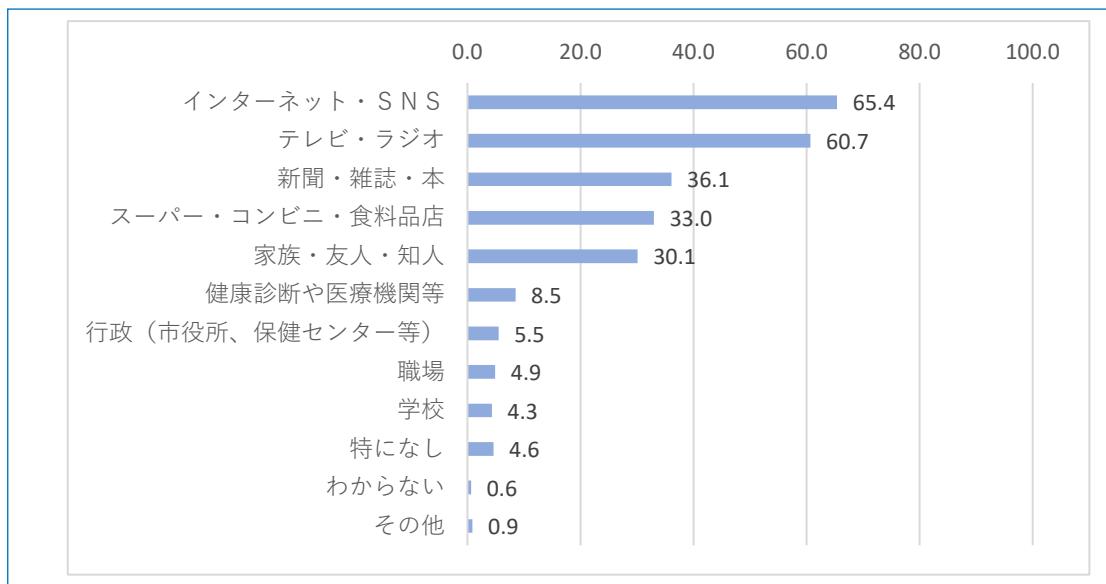
- ・全体で89.2%が「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答しており、策定時より6.3ポイント増加している。
- ・女性の方が、男性よりも食育への関心が高い傾向がみられる。

## 問2 どのような食育の取組を行っていますか。(複数選択可)



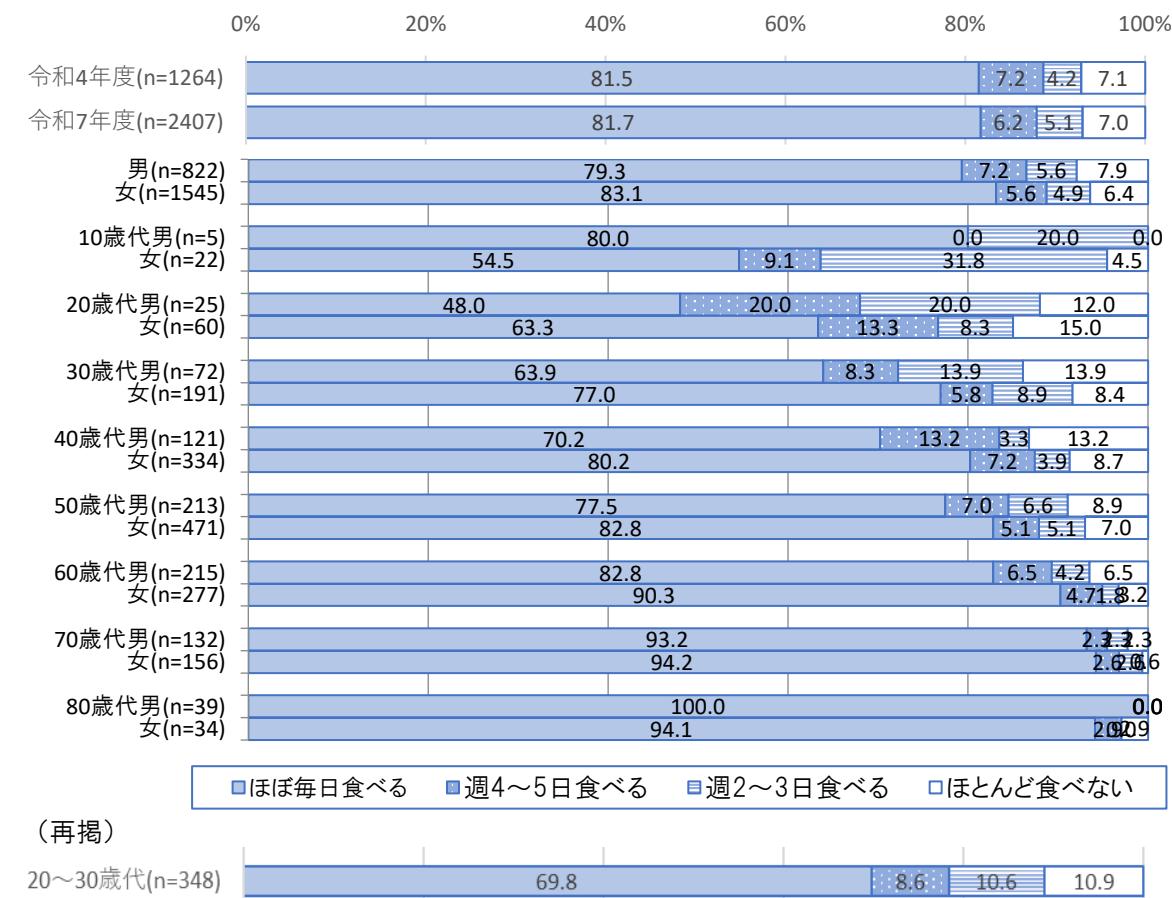
- 食育の取組では約8割が「野菜をとるよう心がけている」と回答している。一方、問19で「野菜を1日2食以上食べている」と回答した人は6割であり、心がけていても実践は難しいと考えられる。

## 問3 食に関する情報をどこから入手していますか。(複数選択可)



- インターネット、SNS、テレビ、ラジオ等のデジタルツールと、新聞、雑誌、本など普段の生活で目にするものから情報を得ている人が多い。

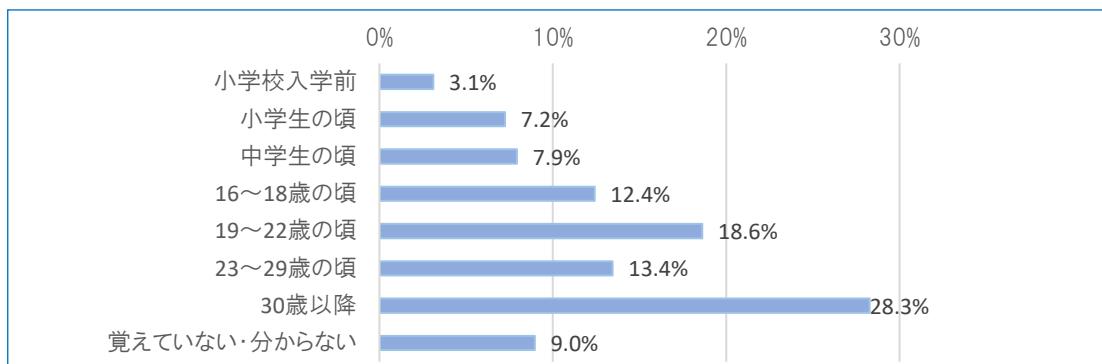
#### 問4 朝食を1週間にどの程度食べていますか。



- 朝食の摂取状況は、策定時とほぼ同じ8割が、ほぼ毎日食べている。
- しかし、20歳代～40歳代で「ほとんど食べない」と回答した人が多く、特に30歳代男性で欠食している人が多い。
- 50、60歳代にも「ほとんど食べない」と回答した人が多い。

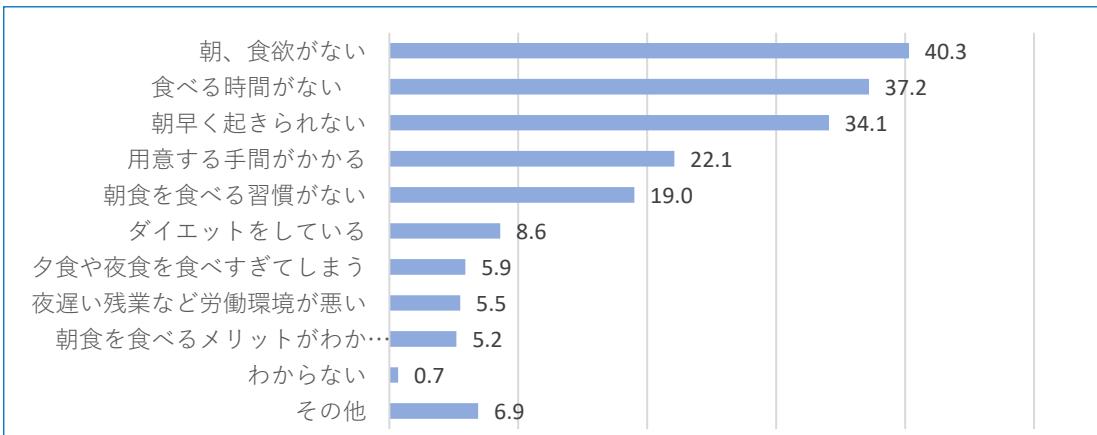
#### 問5 【問4で「週2～3日食べる」「ほとんど食べない」と回答した人に伺います。】

いつ頃から朝食を食べない日がある週間になりましたか。



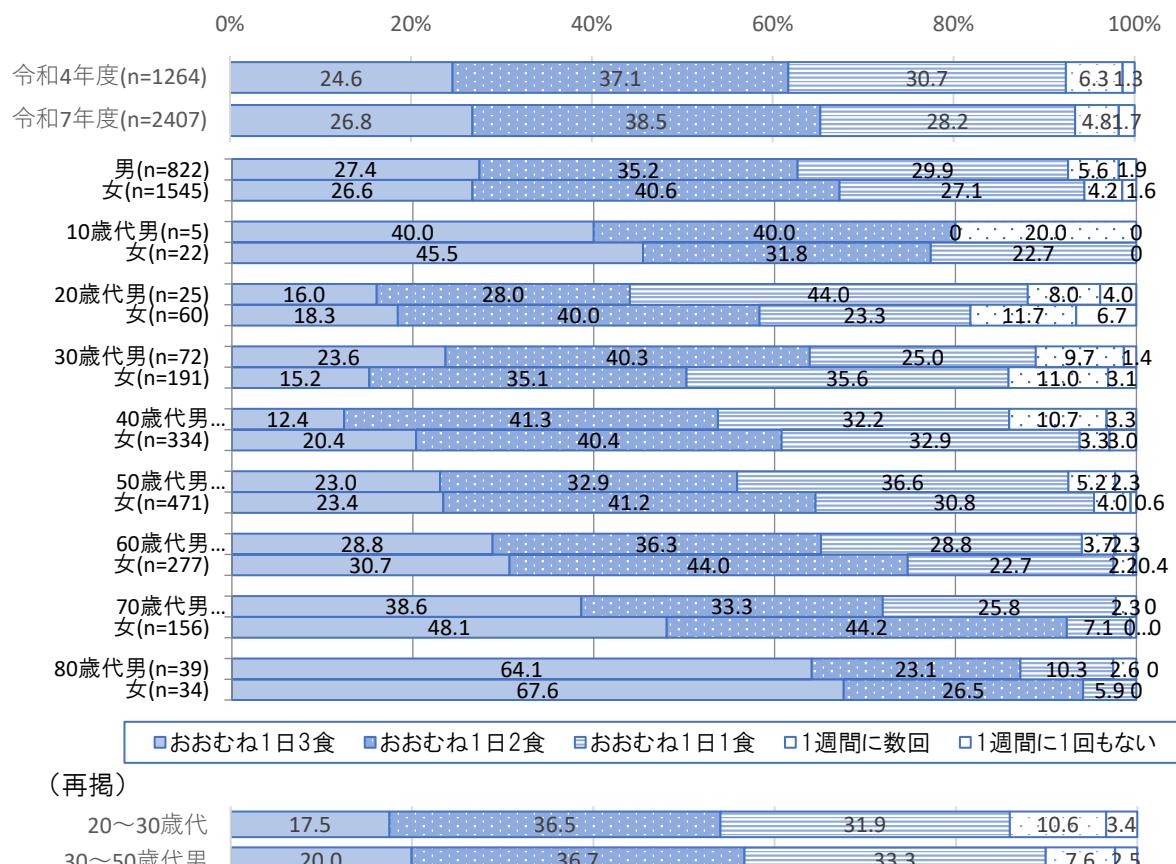
- 朝食を食べない習慣になったのは、「30歳以降」が最も多く、28.3%であった。
- 次に多いのは、高校を卒業した「19～22歳の頃」で、啓発する機会の少ない高校生、大学生から欠食が増えている。

問6 【問4で「週2~3日食べる」「ほとんど食べない」と回答した人に伺います。  
朝食を食べない日があるのはなぜですか。(複数選択可)



- ・「食欲がない」「食べる時間がない」「早く起きられない」理由が上位であった。
- ・その他の意見は、「食べない方が健康によいから」「断食健康法」「食べると体調が悪くなる」などであった。

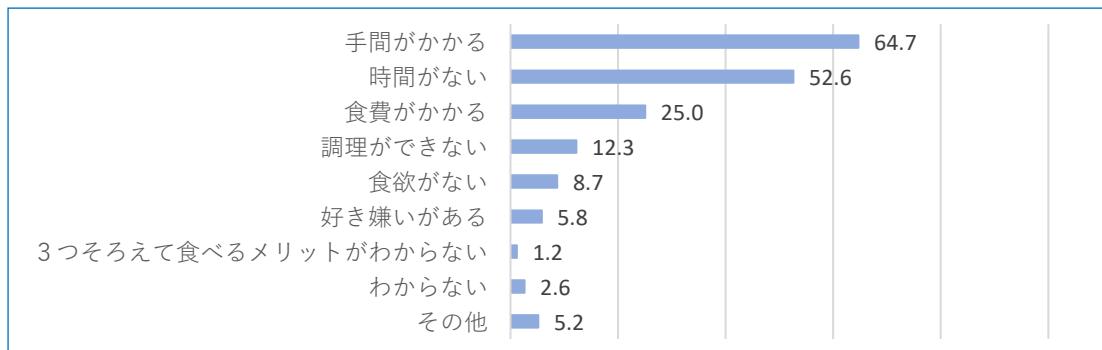
問7 主食・主菜・副菜をそろえたバランスの良い食事の頻度はどのくらいですか。



- ・「おおむね1日2食以上食べる」と回答した人は、65.3%と策定時より増加している。
- ・「1週間に数回」「1回もない」と回答した人は、20歳代～30歳代の若い世代と40歳男性に多く、特に20歳代女性で18.4%と高かった。

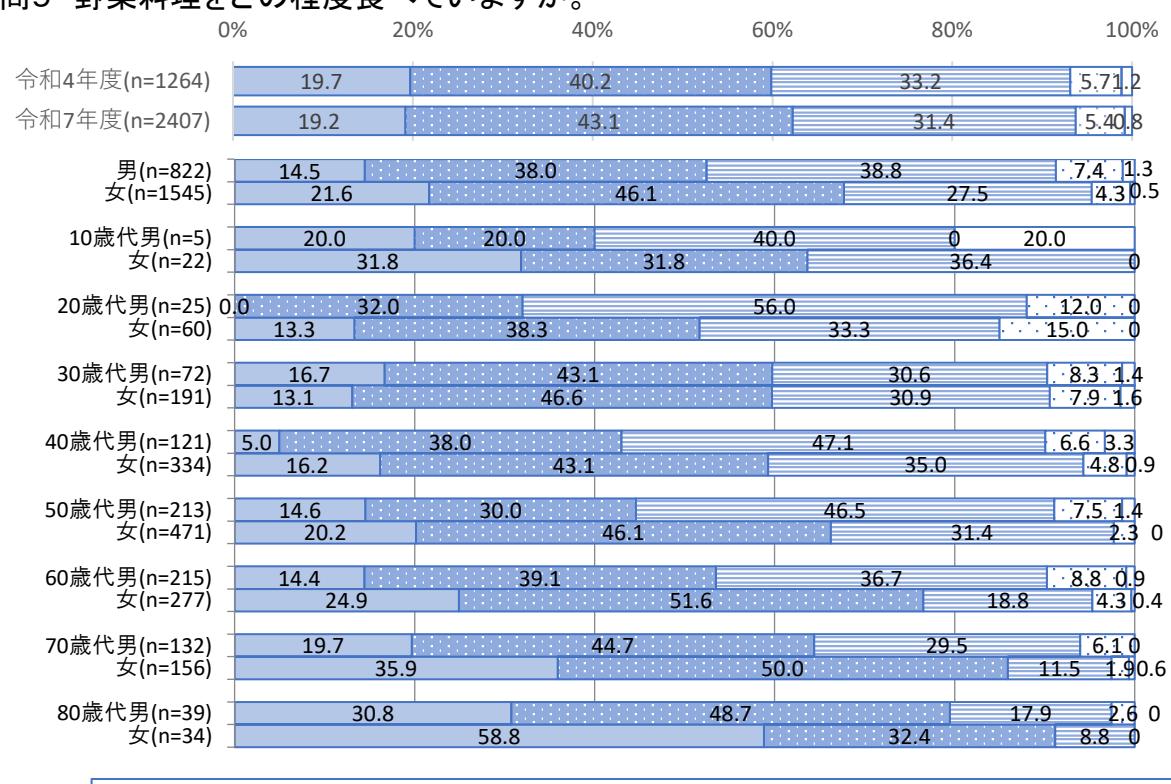
問8 【問7で「おおむね1日2食」「おおむね1日1食」「1週間に数回」「1週間に1回もない」と回答した方に伺います。】

主食・主菜・副菜を3つそろえて食べられない理由は何ですか。(複数回答可)



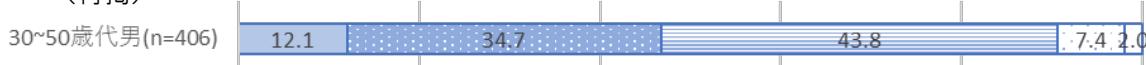
- 「手間がかかる」「時間がない」の理由が半数以上を占める。「食費がかかる」と回答した人も25.0%と多かった。
- その他の理由としては、「夜は炭水化物抜き」「一人で食べると簡単になる」などであった。

問9 野菜料理をどの程度食べていますか。



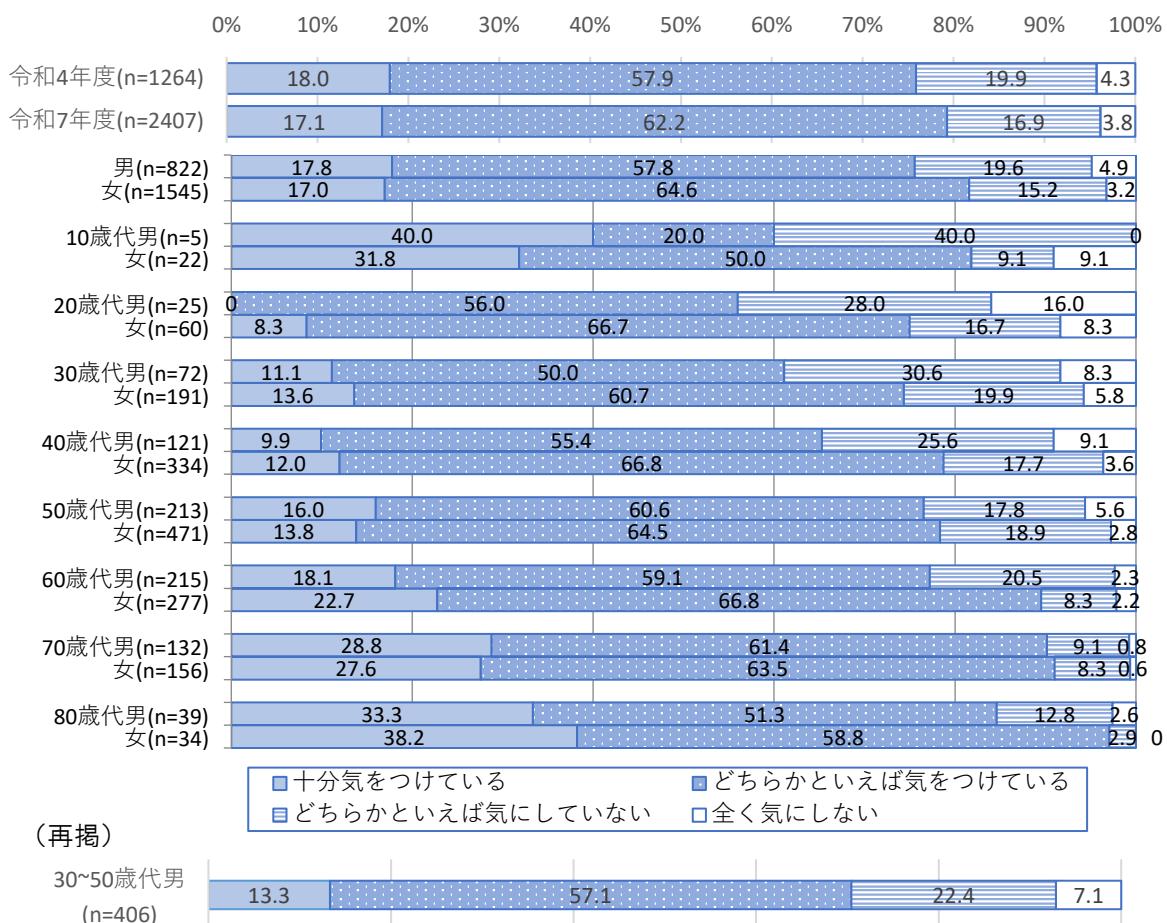
■おおむね1日3食 ■おおむね1日2食 ■おおむね1日1食 □1週間に数回 □野菜料理はほとんど食べない

(再掲)



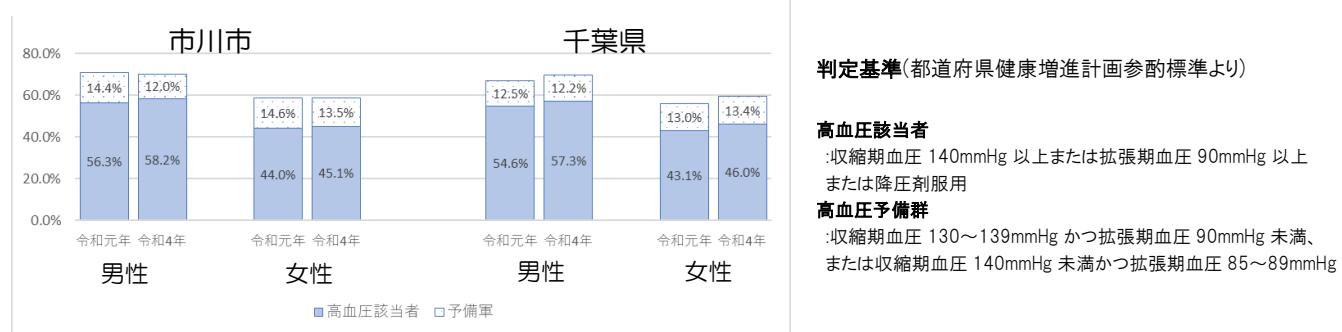
- 「おおむね1日2食以上」野菜を食べている人は、62.3%と策定時より増加している。
- 全年代で、女性の方が男性より野菜を食べている割合が高い。
- しかし、20~30歳代の若い世代と、30~50歳代の働く世代の男性に、「ほとんど食べない」と回答した人の割合が高く、40~50歳代の男性の半数以上が「1日1食以下」であった。

## 問10 塩分をとり過ぎないように気をつけていますか。



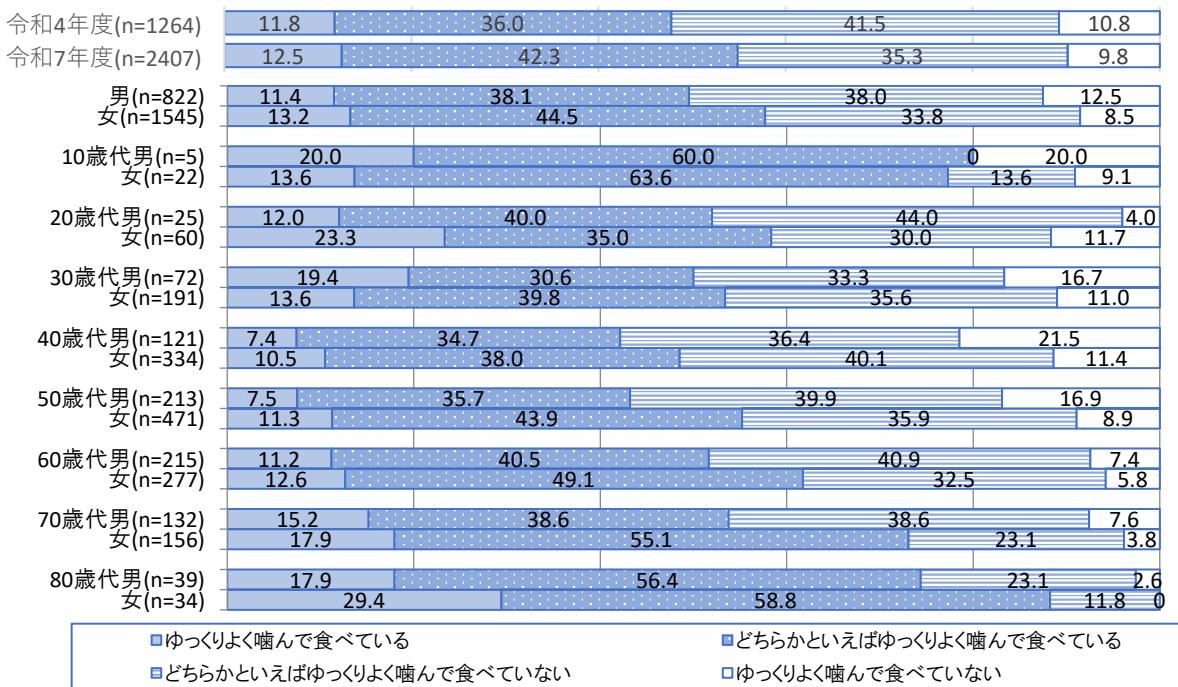
- ・「十分気をつけている」「どちらかといえば気をつけている」と回答した人の割合は79.3%で、年々、塩分摂取に関する意識が高まっている。
- ・30~50歳代の働く世代の男性も70.4%と策定時より増加しているが、「全く気をつけていない」と回答した人も多い。
- ・市川市は、千葉県に比べて高血圧該当者の割合が高く、令和元年度より増加していることより、引き続き実践に向けた取り組みを行っていく。

### 参考) 高血圧該当者、予備軍の割合



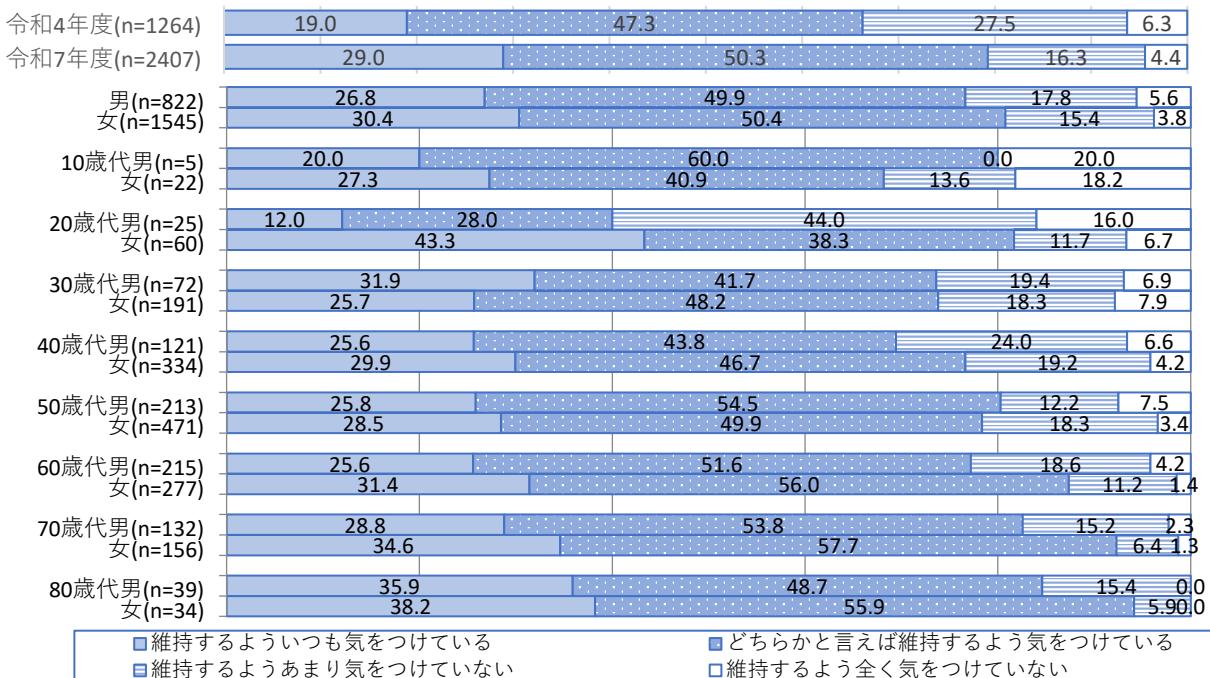
千葉県特定検診・特定保健指導データ結果より

## 問 11 ふだんゆっくりよく噛んで食べていますか。



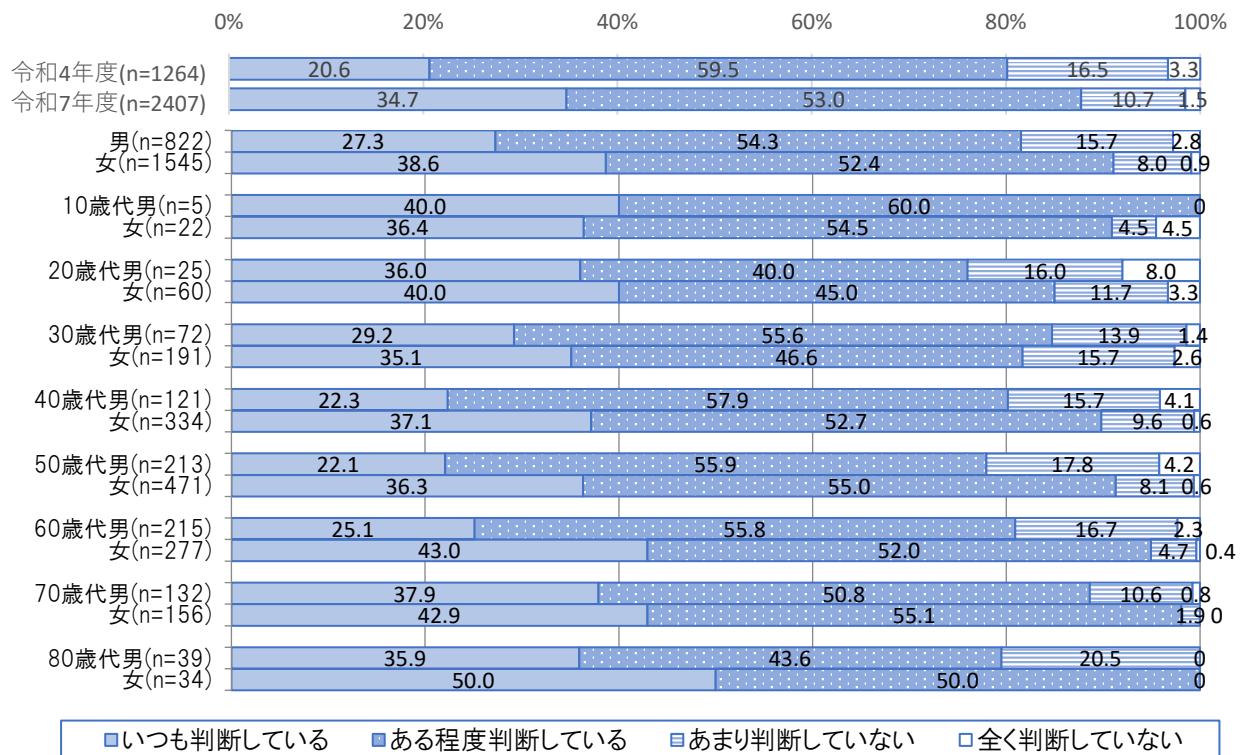
- 「よく噛んで食べている」と回答した人は 54.8% で策定時より 7.0 ポイント増加した。
- 男性より女性の方が、また年代が上がるにつれ、「ゆっくりよく噛む」割合が高くなる傾向がある。30~50 歳男性と、20~40 歳女性に「よく噛んでいない」と回答した人の割合も高い。

## 問 12 生活習慣病の予防や健康づくりのために、食生活や運動に気をつけ、適正体重を維持していますか。



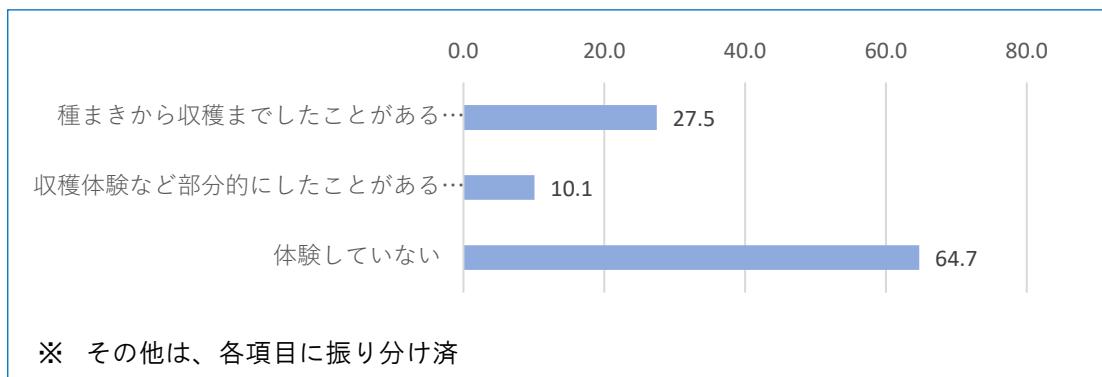
- 「維持するよう気をつけている」「どちらかと言えば気をつけている」と回答した人の割合は 79.3% で策定時より 13 ポイント増加している。
- しかし、30~50 歳男性で、「あまり気をつけていない」「どちらかと言えば気をつけていない」と回答した人の割合が高い。

問 13 健康に悪影響(食中毒など)を与えないようにするための食品選択や調理について必要かどうか、どの程度判断をしていますか。



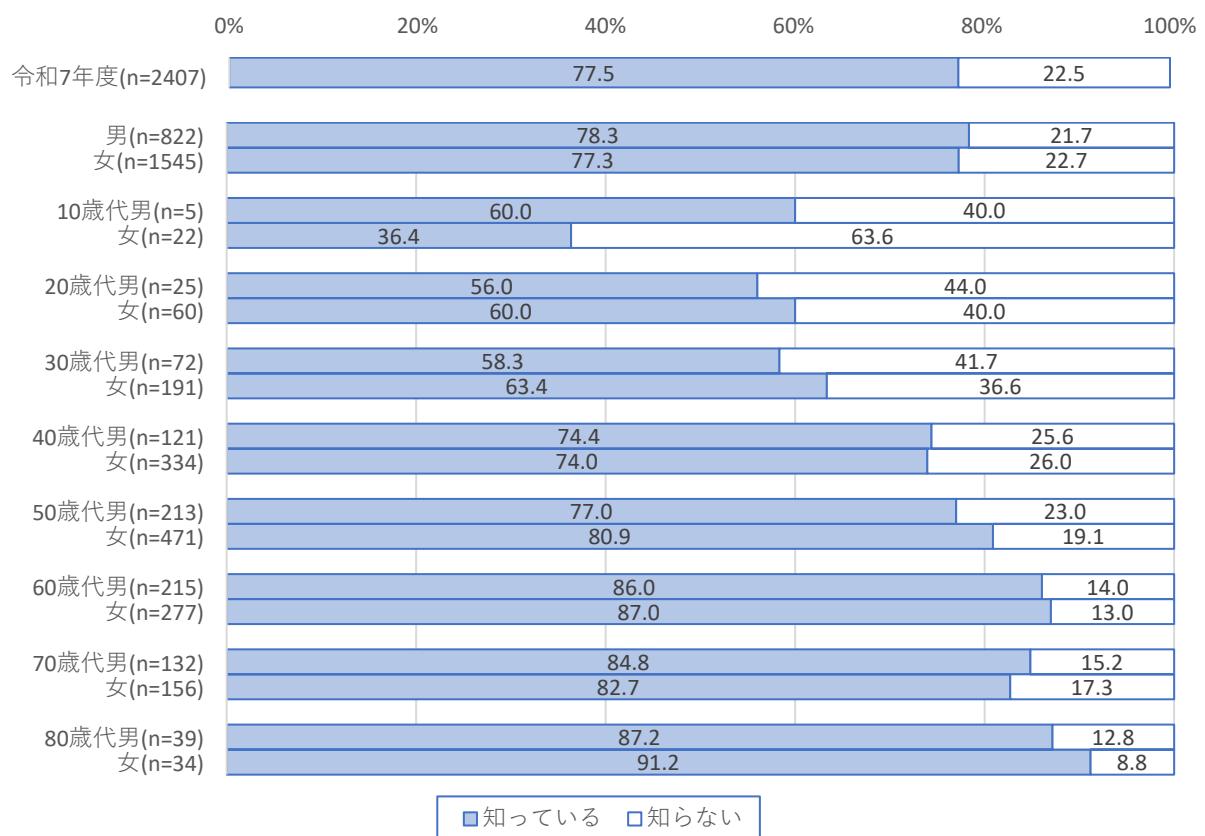
- 「いつも判断している」「ある程度判断している」と回答した人の割合は、87.7%と策定時より7.6ポイント増加した。特に、「いつも判断している」市民は全年代で増加し、34.7%と策定時より14.1ポイント増加した。
- 男性より女性の方が、食品の安全性について判断している割合が高い。

問 14 この一年間に、野菜づくりに親しむ体験をしましたか。(複数選択可)



- 野菜づくりに親しむ体験をした人の割合は37.6%であった。
- 苗から育てる、1回使い終わった野菜を再生するリボベジ（リボーンベジタブル）を行っていると回答した人もいた。

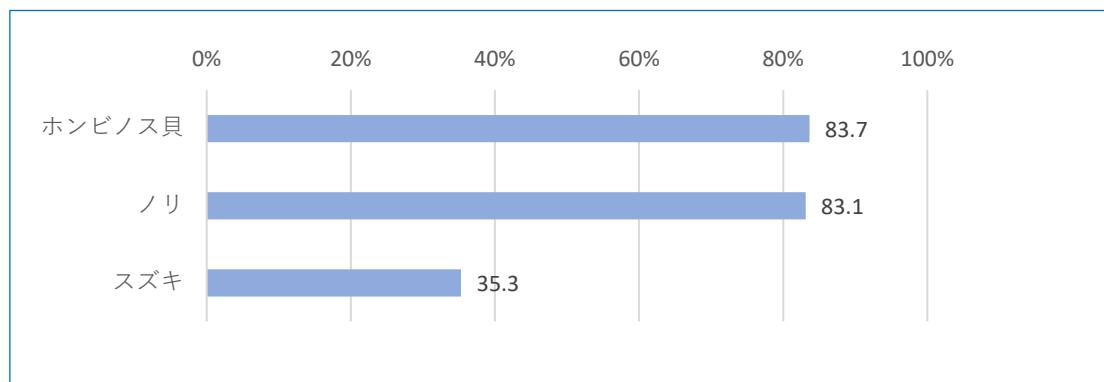
### 問 15 市川市で水産物がとれることを知っていますか。



- 市川市で水産物が獲れることを知っていると回答した人の割合は、77.5%であった。
- 年代が上がるほど水産物が獲れることを知っている人が増える傾向にある。

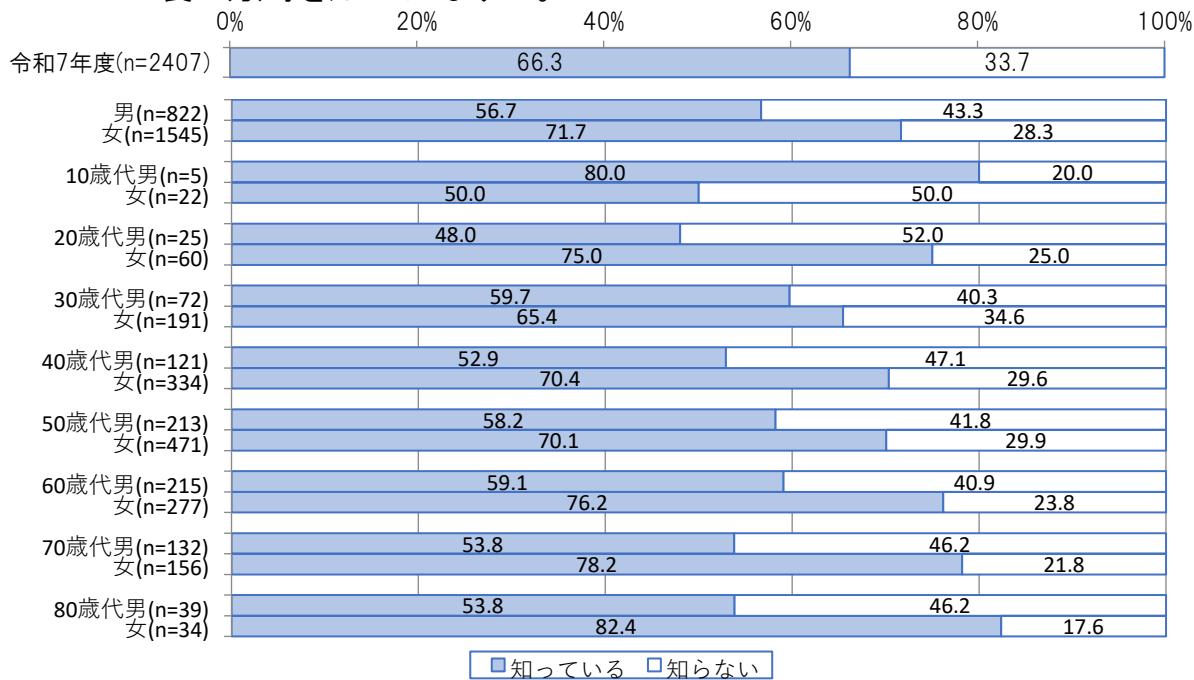
### 問 16 【問 15 で「知っている」と回答した方に伺います】

市川市でどのような水産物がとれることを知っていますか。(複数回答可)



- 市川市で「ホンビノス貝」「ノリ」が獲れることを知っている人の割合は、8割を超える。
- スズキの知名度は、低い結果となった。

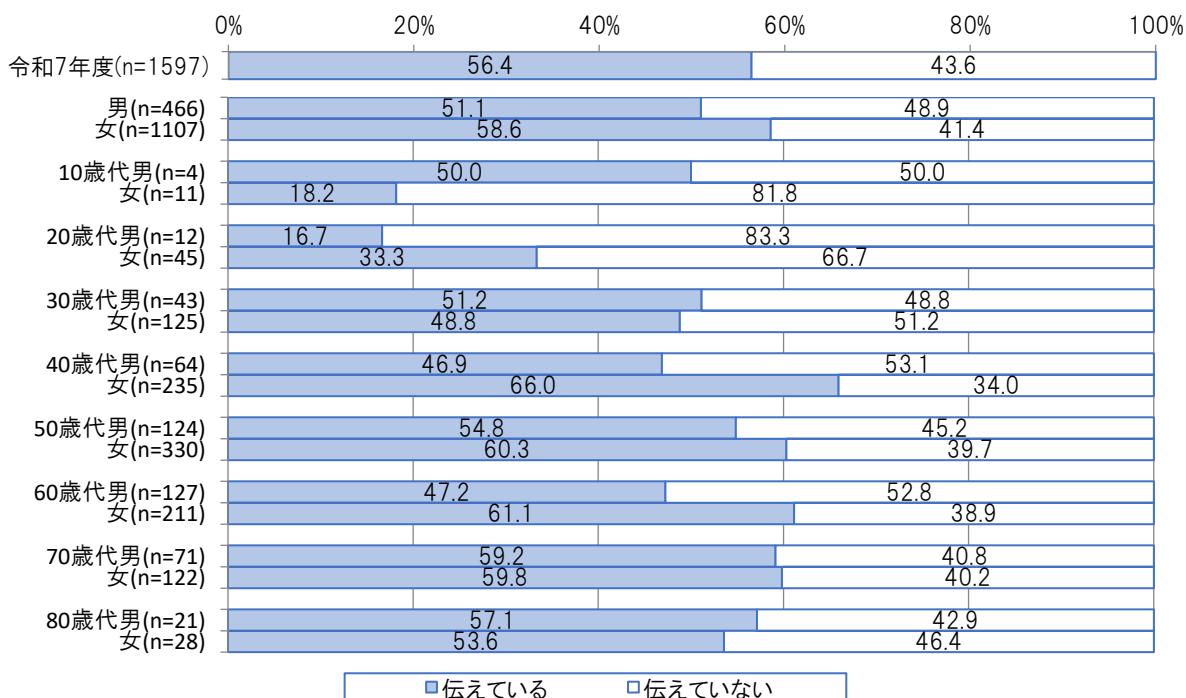
問 17 日本の食文化や郷土料理、家庭で受け継がれてきた料理や作法(箸づかいなどの食べ方)等を知っていますか。



- ・「知っている」と回答した人は 66.3% で、策定時より 5.9 ポイント増加している。
- 男女別にみると、男性 5 割、女性 7 割の人が「伝えている」と回答している。

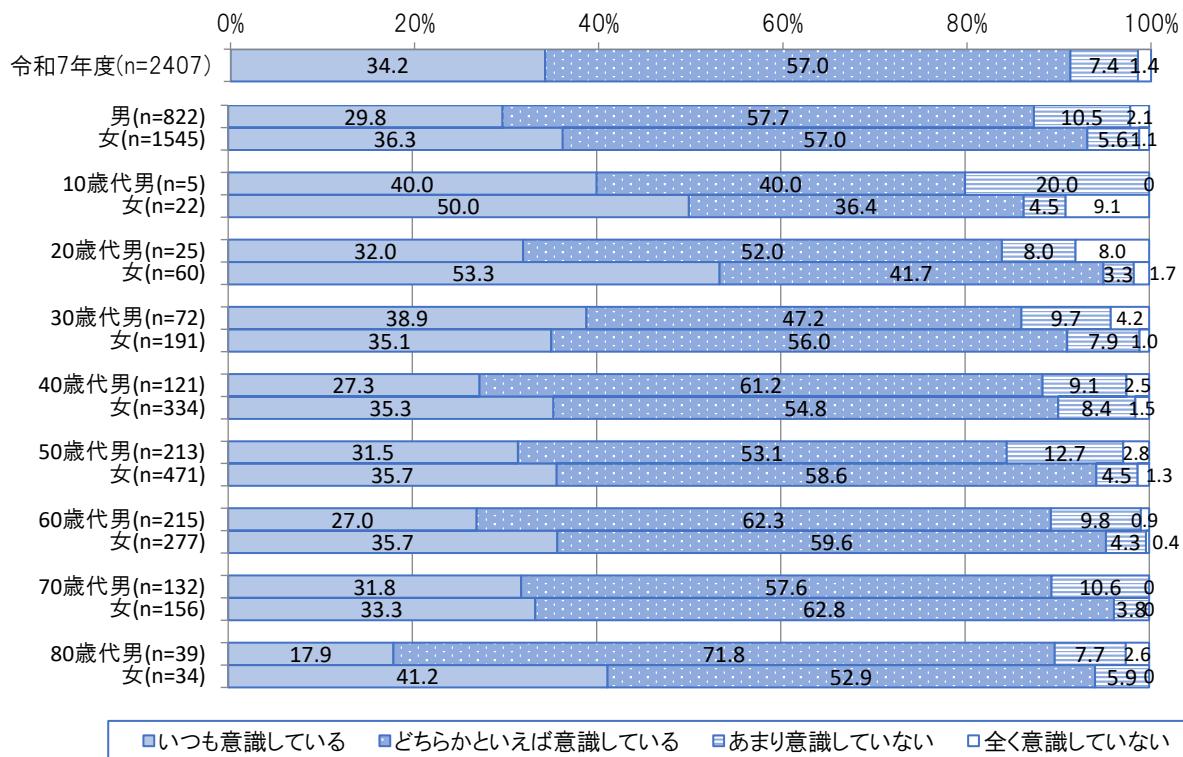
問 18 【問 17 で「知っている」と回答した方に伺います】

日本の食文化や郷土料理、家庭で受け継がれてきた料理や作法(箸遣いなどの食べ方)等を次世代(子どもやお孫さんを含む)に対して伝えていますか。



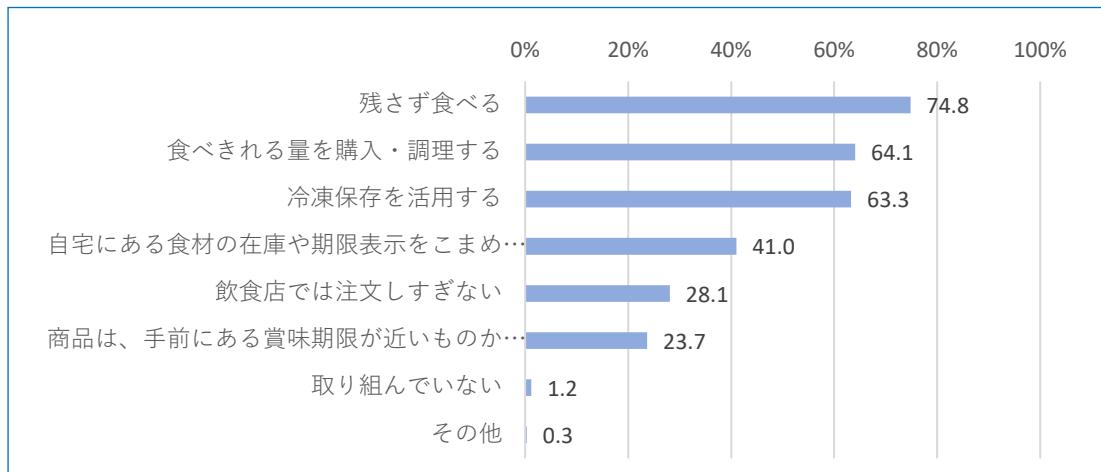
- ・次世代へ伝えていると回答した人は、56.4% であった。特に、40 歳代女性に「伝えている」と回答した割合が高い。

### 問 19 食品ロス削減のために、必要な量だけ購入したり調理するように意識していますか。



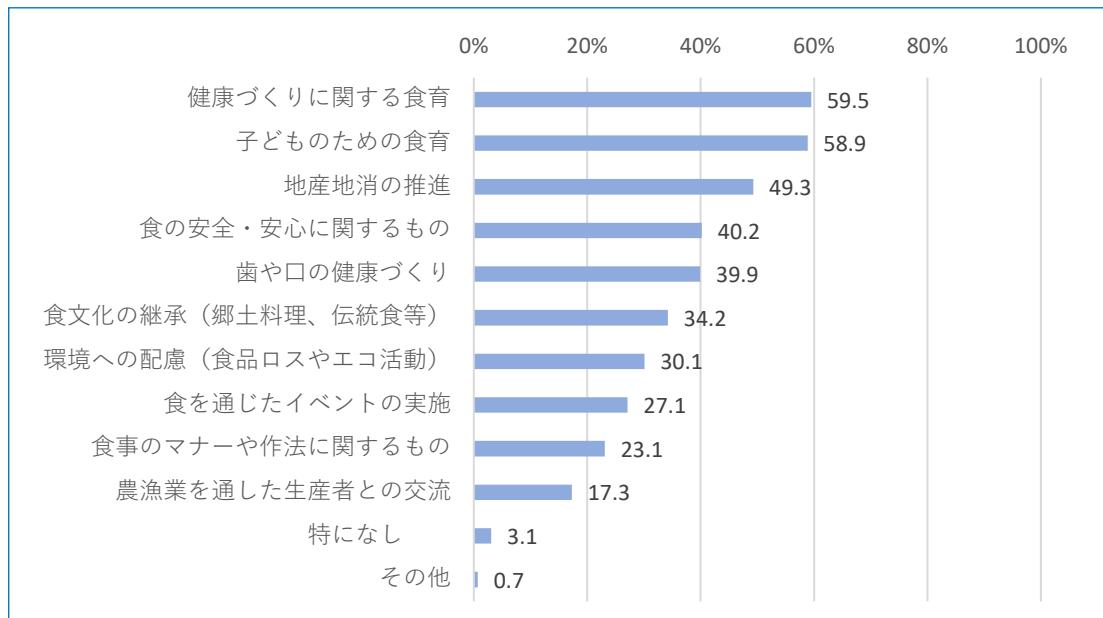
- ・「いつも意識している」「どちらかといえば意識している」と回答した人の割合は、91.2%と策定時より増加している。特に、「いつも意識している」と回答した女性の割合が増えた。

### 問 20 食品ロス削減のために取り組んでいることはありますか。(複数選択可)



- ・「残さず食べる」「食べきれる量を購入・調理する」「冷凍保存を活用」が6~7割を占める。特に、「冷凍保存を活用」する人が、策定時と比べて増加した。
- ・「取り組んでいない」と回答した人は、2.4→1.2%と減少し、何かしら食品ロスに取り組み、意識が高まっている。

問 21 「いかかわの食育」を推進するためには、どのような取り組みが必要であると思いますか。(複数選択可)



- ・「健康づくり」「子ども」の取り組みが必要であると回答した人の割合が6割を占める。
- 次いで、「地産地消」「食の安全、安心」の取り組みが必要であると回答している。
- ・地産地消の取り組みに半数以上が必要と感じているが、問2で地元産食材を購入していると回答した人は25%にとどまり、流通の仕組みづくりが必要である。

問22 自由記載

- ・学校の食育
- ・給食
- ・子ども
- ・農業
- ・水産業
- ・地産地消
- ・環境、食品ロス
- ・健康
- ・イベント開催
- ・食の安全
- ・その他、高齢者、食のマナー、こども食堂、経済面など

No.	指標項目		策定時 (R4年度)	R5年度	現状値 (R7年度)	目標値 (R9年度)	評価
1	食育に関心のある市民の割合		82.9%	83.0%	89.2%	90%以上	○
2	朝食を欠食する市民の割合	小学生	4.2% ※1	—	2.7% ※5	0%を目指す	○
		中学生	9.3% ※1	—	6.9% ※5		○
		20歳～30歳代	30.1% ※2	—	24.7% ※6	15%以下	○
3	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	小学5年生	週13.2回 ※2	—	週11.8回 ※5	現状値を維持	×
		中学2年生	週10.9回 ※2	—	週11.3回 ※5	現状値を維持	◎
4	主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上、ほとんど毎日食べている市民の割合	市民全体	61.7%	64.1%	65.3%	70%以上	○
		20歳～30歳代	38.6%	43.4%	54.0%	55%以上	○
		30歳～50歳代男性	57.9%	55.1%	56.7%	70%以上	△
5	1日2食以上野菜料理を食べる市民の割合		59.9%	59.7%	62.3%	70%以上	△
6	生活習慣病予防や健康づくりのために食生活や運動に気をつけ適正体重の維持を意識している市民の割合	20歳～30歳代女性	58.6%	54.4%	75.7%	70%以上	◎
		30歳～50歳代男性	56.8%	61.0%	75.8%	70%以上	◎
7	ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合		47.8%	48.9%	54.8%	55%以上	○
8	塩分のとりすぎに気をついている市民の割合	30歳～50歳代男性	61.2%	61.8%	70.4%	70%以上	◎
9	栄養教諭等による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数の増加		9.5回 ※3	15.9回 ※4	14.8回 ※7	月12回以上	◎
	学校給食における地場産物を使用する割合（金額ベース）の維持・向上		75.2% ※3	72.0% ※4	71.5% ※7	現状値より向上	△
10	直近1年以内に農業体験に参加したことがある市民の割合		39.8%	39.6%	37.6%	55%以上	×
11	市川市で水産物がとれることを知っている市民の割合		—	74.6%	77.5%	現状値より向上	◎
12	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合		80.1%	83.2%	87.7%	85%以上	◎
13	日本の食文化や郷土料理、家庭で受け継がれてきた料理や作法を知っており、伝えている市民の割合	知っている	—	60.4%	66.3%	伝えている 50%以上	◎
		さらに伝えている	—	56.6%	56.4%		
14	食品ロス削減のために必要な分だけ購入、調理している市民の割合		—	89.0%	91.2%	現状値より向上	◎

策定時：令和4年度「市川市 e-モニター制度による食育アンケート調査」

※1：令和3年度市川市児童生徒のライフスタイル実態調査

※2：健康いちかわ21 令和3年度健康に関するアンケート調査

※3：令和4年度千産千消デー実施報告

R5年度：令和5年度「市川市e-モニター制度による食育アンケート調査」

※4：令和5年度千産千消デー実施報告

現状値：令和7年度「いちモニ（市川市Webアンケート）による食育に関するアンケート調査」

※5：令和6年度市川市児童生徒のライフスタイル実態調査

※6：健康いちかわ21 令和6年度健康に関するアンケート調査

※7：令和6年度千産千消デー実施報告

◎：現状値が目標値を達成している指標

○：現状値が目標に向かって改善している指標  
(+5%以上)

△：現状値が変化していない指標（±5%未満）

×：現状値が改善しなかった指標（-5%以上）

## 第4次市川市食育推進計画中間評価について

### (1) 目的 :

令和7年度は、「第4次市川市食育推進計画（令和5年度～令和7年度）」の中間年度となる。数値目標の達成度を把握・評価し、状況の変化や新たな課題を踏まえ、令和9年度の目標達成に向けた事業展開の見直しを行う。

### (2) 評価の方法 :

現状値を把握するため、「いちモニ（市川市 Web アンケート）」による『食育に関するアンケート調査』を実施した。第4次計画の進捗と評価を行うため、14項目21指標について、第4次計画策定時、現状値、目標値を比較し、達成状況について4段階に分けて評価した。

《評価》 ◎：現状値が目標値を達成している指標

○：現状値が目標に向かって改善している指標 (+ 5 %以上)

△：現状値が変化していない指標 (± 5 %未満)

×：現状値が改善しなかった指標 (- 5 %以上)

### (3) 結果（現状）：

◎	9項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数（中学2年生）</li> <li>生活習慣病予防や健康づくりのために適正体重の維持を意識している（20歳～30歳代女性、30歳～50歳代男性）</li> <li>塩分のとりすぎに気をつけている（30歳～50歳代男性）</li> <li>栄養教諭等による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数</li> <li>市川市で水産物がとれることを知っている</li> <li>食品の安全性について基礎的な知識を持ち判断する</li> <li>食文化や郷土料理、家庭で受け継がれてきた料理や作法を伝えている</li> <li>食品ロス削減のために必要な分だけ購入、調理している</li> </ul>
○	7項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育に关心がある</li> <li>朝食を欠食する（小学生、中学生、20歳～30歳）</li> <li>主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上食べている（全体、20歳～30歳代）</li> <li>ゆっくりよく噛んで食べる</li> </ul>
△	3項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上食べている（30歳～50歳代男性）</li> <li>1日2食以上野菜料理を食べる</li> <li>学校給食における地場産物を使用する割合（金額ベース）</li> </ul>
×	2項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数（小学5年生）</li> <li>直近1年以内に農業体験に参加したことがある</li> </ul>

\*第4次市川市食育推進計画掲載事業 調査票 (令和6年度実績)

基本目標1 健康な体づくりと豊かな心を育てる

内容2-③

(1) 家庭における健全な食生活の実践

NO.	所管課	掲載事業名(教室名等)	事業概要	R6年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性(次年度に向けて)	関連計画
1	こども家庭相談課	パパママ栄養クラス	妊娠中の食生活について理解を深めることで、妊婦自身と家族の健康増進を図る。	妊娠を機に家族の食生活を見直し、健全な食生活を実践できるよう、バランスの良い食事、妊娠中に必要な栄養素を説明、個別相談の対応も行った。	実施回数 8回 参加者数 177人 個別相談 12人 対象時期に参加日を選択できるよう日程を調整した。	B	教室後のアンケートでは、内容は理解できたものの実践	対象者が複数日から選択できるよう、可能な範囲で開催日の日程調整を行う。	・市川市子ども・子育て支援事業計画 ・市川市健康増進計画 健康いしかわ21(第2次)
2	こども家庭相談課	離乳食教室	1回食(4~6か月児)・2回食(7~8か月児)の教室を開催。離乳食の進め方や量、形態など、対象月齢に合わせた講話とデモンストレーションを行う。	月齢に合わせた離乳食の話とデモンストレーション、試食を行うことで離乳食への理解を深めた。 子どもの食事だけでなく、保護者の食事にも目を向けてもらうため、2回食の教室では保護者向けの食生活リーフレットを配布した。	実施回数(1回食)48回 (2回食)48回 参加者数(1回食)789人 (2回食)436人 個別相談(1回食)260人 (2回食)203人 実施回数を見直し縮小したが希望者は全員受け入れられ、個別の相談にも対応した。	B	離乳食に関する情報が多く、個別相談の内容が多様化している。	保護者が不安なく離乳食に対応できるよう、適切な支援を行う。	・市川市子ども・子育て支援事業計画 ・市川市健康増進計画 健康いしかわ21(第2次)
3	こども家庭相談課	乳幼児健康診査における栄養相談	1歳6か月児、3歳児健康診査で、子どもの発育、発達段階に応じた食事について栄養相談を行う。	希望者に栄養相談を行い、保護者の育児不安軽減のための支援を行った。	相談数(1歳6か月児健診) 433人 (3歳児健診) 112人	B	相談内容が多岐に渡るため、細やかで柔軟な対応が求められる。	執務者の情報共有を行い、保護者の不安を軽減できるよう支援する。	・市川市子ども・子育て支援事業計画 ・市川市健康増進計画 健康いしかわ21(第2次)
4	こども家庭相談課	栄養相談	妊婦、乳幼児から高齢者まで食生活、栄養に関する相談を電話、窓口等で実施する。	妊婦、乳幼児を中心とした子育て世帯の相談を実施し、不安軽減のための支援を行った。	相談数 電話188人、来所12人、訪問1人 依頼の健康教育 15回196人	B	相談内容が多岐に渡るため、細やかで柔軟な対応が求められる。	市民が気軽に相談できる場があることを情報の発信をするとともに、不安を軽減できるよう支援する。	・市川市子ども・子育て支援事業計画 ・市川市健康増進計画 健康いしかわ21(第2次)
	健康支援課			高血圧、脂質異常症等の疾病予防の食事に関する相談を行い、不安の軽減を図った。	相談数 電話46人、来所66人	B	相談を実施していることを知らない市民も多いため、周知の強化。	対象者の食習慣に応じた栄養指導を実施する。	
5	健康支援課	生活習慣改善講座	生活習慣病予防の観点から、食事や運動を含めた健康的な生活習慣について知識を深め改善に役立てる。	脂質異常症予防の食事について講義を行った。	2回122人	B	他の内容もあるため、食事の講義に長く時間を割くことが難しい。	限られた時間の中で、参加者の実践につながるような内容を実施する。	

(2) 保育園、幼稚園、学校等における食を通じた健全育成

No.	所管課	掲載事業名(教室名等)	事業概要	R6年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性(次年度に向けて)	関連計画
6	幼保施設管理課	食育指導計画の作成及び実施	保育所保育指針、学校指導要領に基づいて「食育指導計画」を作成し、教育課程、保育の一環に組み込んだ取組を行う。	年齢ごと各園食育計画を作成し、計画に基づき園ごと取り組んだ。	計画に基づき20園で実施。	B	各園ごとの評価を基に、全園での評価ができない。	継続	
	保健体育課			食に関する指導の全体計画①②を作成し、計画に基づき各校で取り組んだ。	小学校38校、中学校15校、義務教育学校1校、特別支援学校1校で実施。	B	計画どおりにできているのか、途中で見直し等が必要である。	継続	
7	幼保施設管理課	保育園、学校における給食管理	旬の素材や地場産物の活用、行事食や郷土料理、バイキング給食、各国の料理、カミカミ献立等、手作りで栄養バランスのとれた特色ある献立を作成。	献立は、今まで通り行事食や旬の食材を取り入れ作成。以上児クラスについては、バイキング給食等も再開。	計画に基づき20園で実施。	B	園ごと取り組み方にばらつきが出てるので、会議等で確認が必要	継続	
	保健体育課			行事食・郷土料理・旬の食材や地場産物を活用した献立を提供した。	小学校38校、中学校15校、義務教育学校1校、特別支援学校1校で実施。	B	栄養士によって、取り組みに差が出ないよう研修会で紹介、周知する等の対応が必要。	継続	
8	幼保施設管理課	保育活動を通じた食育の取り組み	保育士等と連携し、野菜の栽培や収穫、クッキング保育、野菜の皮むき体験、ごっこ遊び、パネルシアターなどの保育活動を通じて様々な食に触れ、関わることで望ましい食習慣の育成を図る。	野菜の栽培や収穫、クッキング保育、野菜の皮むき体験他、箸の媒体を5セット作成し全園に回して使用し持ち方の指導を行った。	計画に基づき20園で実施。	A	箸の媒体活用など新しい取り組みも実施できたが、回し方等計画が必要	継続	
9	保健体育課	栄養教諭・学校栄養職員による食に関する指導	給食を生きた教材として活用し、関連教科と連携した食育に関する授業を推進する。	給食を教材として活用し、教科と連携した授業の取り組んだ。	46校において、実施した。	B	栄養士によって、取り組みに差が出ないよう研修会で紹介、周知する等の対応が必要。	継続	
10	幼保施設管理課	保育園、学校給食の広報活動	給食だより、献立表の配布や、給食試食会、給食展示を活用し、家庭への啓発を図る。	事業概要に載せているものは、すべて実施した。また親子でできる給食レシピの動画配信も年間を通して実施した。	計画に基づき20園で実施。	A	昨年同様、給食レシピの動画閲覧回数が伸びていないので、アピールの方法が課題	継続	
	保健体育課			献立表、給食だよりの配付し、家庭への啓発を図った。保護者対象の試食会の実施。	小学校38校、中学校15校、義務教育学校1校、特別支援学校1校で実施。保護者対象の試食会は44校で実施した。	B	栄養士によって、取り組みに差が出ないよう研修会で紹介、周知する等の対応が必要。	継続	
11	幼保施設管理課	アレルギー相談	家庭と連携して、アレルギーに配慮した給食を提供する。	おやつで卵、乳を使用するものについて、別作りのレシピを作成し、全園で保護者負担を減らすようにした。	計画に基づき20園で実施。	A	おやつの持参はだいぶ軽減したが、主菜の代替をどうしていくか課題となる	継続	
	保健体育課			食物アレルギー対応の手引きに基づき、アレルギーに配慮した給食提供を行った。	小学校38校、中学校15校、義務教育学校1校、特別支援学校1校で実施。	B	栄養士によって、取り組みに差が出ないよう研修会で紹介、周知する等の対応が必要。	継続	
12	保健体育課	ヘルシースクール推進事業	子ども達が健康について自ら考え、望ましい生活習慣を確立するため、小児生活習慣病予防健診(すこやか検診身体測定、血液検査、すこやか歯科検診咬合力、唾液検査、食事調査等)を実施する。	小学5年生、中学1年生の前年度有所見者の受診希望者に、血液検査の実施を行い、有所見者に対し、事後指導(要医療・健康相談等)を勧めた。	小学5年生 2305名、中学1年生77名が受診した。小学6年生195名、中学2年32名が再受診した。	B	個々に課題が異なるので、よりきめ細やかな対応が求められる	継続	

(3) 地域における食を通じた交流の促進

No.	所管課	掲載事業名(教室名等)	事業概要	R6年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性(次年度に向けて)	関連計画
13	健康支援課	食生活サポーターの活動支援	食生活改善に関する普及啓発と健康に対する意識を高めるため、地域において食生活の相談窓口の役割を担う。 また、おとなの食育講習会、おやこの食育講習会等を開催し、健康づくりのための食育の啓発を行う。	おとなの食育講習会で試食の実施、移動販売でレシピ以外に食事のポイントもお伝えするなど、市民の方がより食に関して理解を深めるような活動を実施した。	115回2,371人(食生活サポーターと共に食育活動を実施)	B	定年などもあり、食生活サポーターの担い手が不足しており、定員に達していない。	各講座や市民まつり等で食生活サポーターの周知を実施していく。	
14	健康支援課	低栄養に向けた取組	低栄養予防の講習会や教室等で講話や相談を行う。	依頼事業にて低栄養予防の講話を実施。食生活サポーターと共に買い物不便地域における移動販売にてレシピや食事のポイント記載資料を配布した。	依頼事業:6回95人 移動販売:6回81人	B	移動販売での配布会場が少ない。	移動販売で配布する会場が増加できるよう、方法等を変更する。	

\*第4次市川市食育推進計画掲載事業 調査票（令和6年度実績）

基本目標2 食文化継承と食の循環・環境を理解し実践する

(1) 伝統的な食文化の継承

NO.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R6年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方針性（次年度に向けて）	関連計画
15	健康支援課	日本の食文化や郷土料理の継承	市民まつり、農水産まつり等のイベントや講習会で郷土料理の紹介、体験を行う。また、行事食の由来や季節の食材を利用したレシピをSNS等で発信する。	行事食の由来や季節の食材を利用したレシピをSNS等で発信した。魚のさばき方教室では郷土料理についてお伝えし、試食も行った。	SNS更新1回:閲覧数1万回 魚のさばき方教室で「いわしのつみれ汁」を参加者に試食してもらうことで郷土料理を味わってもらった。	B	SNSでの発信回数が少なく、触れることができなかった行事食も多くあった。	SNSでの発信回数を増やし、行事食についてさらに啓発を行う。	
16	幼保施設管理課	給食における行事食、郷土料理の導入	給食の献立に行事食、郷土料理を取り入れ、食文化への理解を深めていく。また旬の素材を活かした季節感ある献立を実施し、給食だより、献立等で保護者に啓発する。	ハロウイン、七五三、冬至、クリスマス、おせち料理（もどき）、祭り寿司、ひな祭り、卒園お祝い膳などの行事食を給食献立の中で実施した。	各々の行事の意味等も子どもたちは、理解できた。	A	各園で実施した行事食のやり方など情報交換する。		
	保健体育課			行事食や郷土料理を取り入れ、食文化の理解を深めた。また、献立表や給食だよりを発行し、保護者に啓発した。	児童生徒が実際に、給食で行事食や郷土料理を食べることにより、食文化に対する理解を深めることができた。	B	更に理解を深めるには、どうはたらきかけたらよいのか。次年度はアンケート調査をおこない、状況を把握する予定。	継続	

(2) 地産地消の推進

No.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R6年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方針性（次年度に向けて）	関連計画
17	保健体育課	学校給食における地場産物の導入	梨や生ノリを給食に提供し、市川の農水産物の普及を図る。また11月の千産千消デー、1月の学校給食週間に千葉県産の食材を使った給食を実施する。	市川の農産物である「梨」や「海苔」を給食で提供し、市川の農水産物の普及を図った。また、11月の千産千消デーや1月の学校給食週間に千葉県や市川市の食材を使用した給食を実施した。	梨をそのままデザートとして、または料理に使用して提供した。海苔は、1月24日～30日の学校給食週間に合わせて、54校で調理し提供した。	B	11月の千産千消デーの取り組みが、時期的になものもあり、同じような献立になってしまっている。	継続	
	臨海整備課			1月の学校給食週間ににおいて、生ノリ及び板ノリを市立小中学校、義務教育学校、特別支援学校に提供	生ノリ125kg、板ノリ16,080枚を54校に提供	A	今後も学校に提供を行い、子どもたちへの市川産水産物の普及を図る。		
18	農業振興課	体験農園事業（市民農園、ふれあい農園）	農作業体験を通して農業への楽しさや親しさ、収穫の喜びや食べ物を大切にする心を醸成するとともに、都市農業への理解を深める。	市民農園、ふれあい農園、おうちでちよこと菜園を実施。	公設市民農園:5ha所運営 民設市民農園:21ha所運営 ふれあい農園:58組参加 おうちでちよこと菜園:50組参加	B	応募が定員を上回る状態が続いている。市民農園は、人員不足により現在よりも多くの公設市民農園を運営することができないため、公設市民農園の数を増やすことができない。	荒廃農地などの管理が難しくなった農地の地権者に対し、民設市民農園として管理する方法を案内することで民設市民農園の数を増やす。また、市民農園開設の際に活用できる補助金があることを案内する。	第2次いしかわ都市農業振興プラン
19	臨海整備課	魚食文化フォーラム実行委員会との協働によるイベント開催	生産者・消費者・小売業者から成る魚食文化フォーラム実行委員会を組織し、ノリすき体験、魚のさばき方教室、市内小学校での出前授業を開催。市内水産業の振興と水産物の消費拡大を図る。	・いしかわ三番瀬まつりの開催(10月) ・魚のさばき方教室の開催(2月) ・ノリ漉き体験学習への支援(ノリ漉き台の貸出)	・いしかわ三番瀬まつりの開催 約1200人来場 ・魚のさばき方教室の開催 12人参加 ・ノリ漉き体験学習への支援(ノリ漉き台の貸出) 市内小学校3校に貸出	B	・コロナ禍前まで開催されていた小学校でのノリ漉き体験について、講師の高齢化等の課題を解消し、継続的に実施する方法を検討する必要がある。	イベントの開催等を通じて、広く市民に対して市川市の水産業の普及を図る。	
20	農業振興課	農水産イベント開催や直売所等でのPR	農水産まつり、いしかわ産フェスタ、「市川のなし」フェア、「市川とまと」フェア等でのイベント、スズキや生ノリの販売会といった機会や、直売所、道の駅いちかわを活用して地場産物のPRを行う。	「市川のやさい」フェア、「市川のなし」フェア、市川産花の展示会、いしかわ農水産まつり等のイベントを実施。	イベント実施日「いしかわ」フェア:6/1(土) 「市川のなし」フェア:8/10(土)、9/14(土)、9/21(土) 市川産花の展示会:11/13(水)～11/17(日) いしかわ農水産まつり:12/14(土)	B	PRにより農産物の周知はしているものの、直売所等では販売の際、需要に対して、農産物の供給が間に合っていない。	市川市は都市であり、農地として利用できる範囲が限られる中、農家さんの所得向上を図り、農作物の量ではなく、農作物 자체の価値を高めるPRを行う。	第2次いしかわ都市農業振興プラン
	臨海整備課			・鮮魚店でのスズキ販売(6月) ・農水産まつりでのホンビノス貝販売(12月) ・鮮魚店及び行徳支所での生ノリ販売(1月)	・鮮魚店でのスズキ販売 45kg販売 ・農水産まつりでのホンビノス貝販売 約100kg販売 ・鮮魚店及び行徳支所での生ノリ販売 約175kg販売	B	・協力鮮魚店が北部にしかなく、南部地域での販売が無い少ない ・鮮魚店の数が減少傾向にあり、将来的な事業の継続が危ぶまれる。	普段味わうことの少ない市川産水産物を市民が食べることの出来る機会を将来にわたり創出するため、販売店の拡大等を検討する。	
21	保健体育課	保育園、学校での農業体験	保育活動の中で野菜の栽培・収穫体験や、学校の授業で梨の選果場見学、農漁業体験を行う。	主に小学校において、野菜の栽培や収穫体験を行った。また、小学3年生は、市内見学として梨園や選果場を見学した。	小学校では、野菜の栽培から収穫までを学習し、食べ物に対し興味関心を持たせていた。梨園や選果場を見学した。	B	栽培中の一時的な興味関心になってしまって、継続させるにはどうしたらよいのか。	継続	
	幼保施設管理課			各園ごと園庭やプランターにて野菜の栽培、収穫を実施した。	野菜の栽培や収穫を体験し、給食や家庭への持ち帰りで食する体験ができた。	A	継続		

(3) 環境を意識した食育の推進

No.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R6年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方針性（次年度に向けて）	関連計画
22	清掃事業課	ごみ発生抑制等啓発事業	小学生対象に食品ロスについて学び、給食を残さず食べる「かしこく・おいしく食べきりチャレンジ」の取り組みを行う。	「かしこく・おいしく食べきりチャレンジ」廃止。代替として出前授業の実施。		D			
	保健体育課			各校において、毎日、給食の残菜を確認し、減少につながるような取り組みを行った。	残菜について確認し、残菜が多い料理については調理方法や味付け方法、提供量等を検討し、残菜を減少させるように工夫した。	B	残菜が多く残るから、提供しないのではなく、定期的に提供し、食べ慣れることも大切と考える。	継続	
23	清掃事業課	生ごみ減量への啓発	家庭から出される生ごみ減量のために、必要な量だけ購入する、食材を無駄にしない料理の普及など、食品廃棄を減らす取り組みを行う。	10月の食品ロス削減月間に、パネル展・デジタルサイネージによる周知啓発。また、第二庁舎とクリーンセンターにフードドライブを特別設置。	第二庁舎、クリーンセンターのフードドライブ利用者なし。	D	このような結果になった要因として、PR期間・設置場所などの要因が挙げられる。	PR時期や設置場所などの見直しに取り組む。	
	健康支援課			食生活サポーターと共に食品ロス削減につながるおいしいレシピを配布した。	移動販売でのレシピ等配布:6回81枚	B	配付以外の取組が少ない。	講習会やイベントの企画も行う。	
24	清掃事業課	フードドライブ事業	ご家庭で余っている未開封の食品などをフードドライブによって集める活動を行う。集めた食品は市川市社会福祉協議会が行う「いしかわフードバンク」へ提供し、こども食堂等で活用する。	・市内9店舗ファミリーマート(常時) ・イベント等でのフードドライブ実施	6,758点の食品が集まった。	B	周知の強化	デジタル媒体を用いた周知の強化	
25	農業振興課	減農薬栽培推進事業	環境にやさしい農業の推進事業として、梨栽培における農薬散布回数を削減し、より安全な農産物の生産と品質向上につなげる。	梨栽培において、農薬散布回数を軽減できる各種資材の導入を促進し、環境にやさしい農業を推進した。	JAIいちかわ果樹部会に1,631千円交付。	B	JAIいちかわ果樹部会にしか補助金を交付していない状態が続いている。	野菜部会、花き部会にも補助金を活用していただけるように周知する。	第2次いしかわ都市農業振興プラン
26	清掃事業課	ごみ発生抑制等啓発事業	小学校等へ出向き、食品ロスを含むごみの削減についての出前授業を行う。	実際にごみ収集車を展示するなどして、ごみの問題について意識を高めてもらった。	計20回(小学校15回、その他5回)	B	収集車の展示が無くなり、興味関心を持つていただけるような内容の企画	食品ロスに関する時事問題について把握して、鮮度のある情報で興味関心を引いていきたい。	

\*第4次市川市食育推進計画掲載事業 調査票（令和6年度実績）

基本目標3 食育推進運動の展開と推進体制の充実を図る

(1) 食育の効果的な普及啓発

NO.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R6年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
27	食育関係課(7課)	市公式Webサイト「いちかわの食育」	食育に関する情報を効果的に発信するとともに、料理レシピ掲載や食の安心・安全などの役立つ情報を定期的に発信する。	食育に関する情報の更新、発信を行った。	イベント等で出会うことが出来ない方などに情報を啓発出来た。	B	新規事業や新しい取り組みについての更新が出来ていない。	各課の新規事業等も「いちかわの食育」HPにつなげていく。	
				「親子でつくる給食レシピ」をテーマに動画配信を行った。	保育園では毎月の献立表にQRコードを付ける等アピールしたが、再生回数は伸び悩んでいる	B	保育園関係者以外へのアピールが今後の課題	新テーマでの撮影、配信の予定はない	
28	食育関係課(7課)	食育月間及び食育の日による普及啓発	6月の食育月間及び「毎月19日は食育の日」を、広報紙、懸垂幕、デジタルサイネージ等で広く周知する。	広報6月1週号に「おいしくかしこく野菜を食べよう」というテーマで掲載。懸垂幕、デジタルサイネージ、公用車に食育マグネット貼付走行、食育展示実施。	懸垂幕6月2日から6月30日掲示。公用車18台に食育マグネット貼付走行。食育展示6月11日から6月25日に実施。	B	食育に関心が低い方も興味を持つてもらえるような内容の企画。	実施内容、展示場所等を検討する。	
				各園ごと取り組み内容は別々だが、野菜の栽培、収穫、クッキング保育等に取り組んだ。	夏野菜がいろいろ収穫で、給食などに使って園児が食することができた。	A		継続	
				「野菜を育ててみよう ふれあい農園」というタイトルで、令和6年6月1日号広報いちかわに掲載。	ふれあい農園に関する情報を提供し、食育促進に貢献した。	B	特になし	食育関係機関と情報を共有し、食育促進に貢献する。	第4次市川市食育推進計画
29	食育関係課(7課)	市民まつり等イベントにおける食育活動	食と健康に関する関係部局、関係機関、団体の連携・協働により、食育の啓発を行う。	市民まつりで食生活サポーターと和洋女子大学がとなりのブースで食育の啓発を行った。	食生活サポーター啓発物配布数582枚	B	市民まつりに参加する関係課、団体が減少傾向にある。	市民まつりに参加する関係課、団体が増加するよう働きかける。	
30	食育関係課(7課)	食育講演会の開催	食育の実践につなげるため、食の専門家を招き講演会を実施する。同時に、「いちかわの食育」に関する展示を行い食育の普及・啓発を図る。	スポーツ料理研究家の村野明子先生より、「切りっぱなし野菜で栄養バランスアップ」をテーマに講演いただいた。いちかわの食育展示も実施。	参加者95名	B	講師料が上がっており、計画推進に沿った内容の講演を行う講師に依頼することが難しい。	4次計画で取組が少ない項目をテーマに実施する。	
31	食育関係課(7課)	商業施設等における情報提供	スーパーの食品売り場やカフェスペースを活用し、適塩レシピの紹介や「いちかわの食育」に関する情報を提供する。	ダイエーニッケルトンプラザ店の食品売り場に適塩レシピ掲載、ちらしラックにておいしいレシピ等配布。	ダイエーニッケルトンプラザ店を利用する方々へ、適塩等の啓発ができた。	C	コロナ以降、ダイエーニッケルトンプラザ店ではイベントスペースが縮小され、実施が難しい。	情報提供ができる市内商業施設を探し、啓発を実施する。	

(2) 食の安全・安心に関する知識の普及

No.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R6年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
32	健康支援課	食品表示に関する情報提供	食品表示の見方や知識、理解を深めるため、ホームページや講習会等で食品表示に関する情報提供を行う。	食品の安全性に関するHPにて、県や関係府省庁の情報提供を行った。	平均アクセス数:月11回	C	県や関係府省庁の情報提供を行っているがアクセス数はあまり多くない。	HPをXでも周知するなど、より多くの人に食品表示に関する情報を提供する。	

(3) 多様な関係者との連携・協働

No.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R6年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
33	食育関係課(7課)	市川市食育推進関係機関連絡会	各関係機関、団体がそれぞれの立場から食育の取り組みを進めるとともに、連携を強化し、総合的かつ効果的な食育を推進する。	団体の食育の取組紹介や第4次市川市食育推進計画について情報交換を行った。また、千葉伝統郷土料理研究会より事例発表を行っていた。	連絡会では、関係機関より食育についての意見をいただけた。	B	関係機関との連携強化。	食育の推進についての情報共有、関係機関と連携、協力を強化する。	
34	食育関係課(7課)	庁内食育関係課会議	国や県の取組と連動した効果的な食育の普及啓発や、本市の継続的な食育推進を図るため、関係部局が連携して食育を推進する。	年間5回の会議を実施し、食育の推進について意見交換を行った。	関係課と連携し市民へ食育の啓発を行った。	B	新たな連携事業の実施。	会議にて意見情報交換し、連携、協力して、食育の推進を行う。	
35	食育関係課(7課)	大学、企業等と連携した取り組み	若い世代、働く世代への推進を図るため、市内大学、商業施設等と連携した取り組みを実施する。	農水産まつりで和洋女子大学がさつまいものポタージュの販売を行った。	市民が農水産物に関心を持ち、地産地消について理解できるよう、啓発した。	B	若い世代、働く世代が興味を持つようなイベントの実施。	商業施設等での連携事業の実施。	

\*第4次市川市食育推進計画掲載事業 調査票 (令和5年度実績)

基本目標1 健康な体づくりと豊かな心を育てる

(1) 家庭における健全な食生活の実践

NO.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R5年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
1	こども家庭相談課	パパママ栄養クラス	妊娠中の食生活について理解を深めることで、妊婦自身と家族の健康増進を図る。	妊娠を機に家族の食生活を見直し、健全な食生活を実践できるよう、バランスの良い食事、妊娠中に必要な栄養素を説明、個別相談の対応も行った。	参加者数 84組 140人 個別相談 20人	C	日程により、申し込み人数に差がある。土曜日の参加希望が多いが、開催日の調整が難しい。	対象者が複数日から選択できるよう、可能な範囲で開催日の日程調整を行う。	・市川市子ども・子育て支援事業計画 ・市川市健康増進計画 健康いちかわ21（第2次）
2	こども家庭相談課	離乳食教室	1回食(4~6か月児)・2回食(7~8か月児)の教室を開催。離乳食の進め方や量、形態など、対象月齢に合わせた講話とデモンストレーションを行う。	10月から試食を再開。試食を行うことで離乳食への理解を深め、実践へ繋げることができた。	参加者数(1回食)746人 (2回食)456人 個別相談(1回食)382人 (2回食)259人	B	離乳食に関する情報が多く、個別相談の内容が多様化している。	保護者が不安なく離乳食に対応できるよう、適切な支援を行う。	・市川市子ども・子育て支援事業計画 ・市川市健康増進計画 健康いちかわ21（第2次）
3	こども家庭相談課	乳幼児健康診査における栄養相談	1歳6か月児、3歳児健康診査で、子どもの発育、発達段階に応じた食事について栄養相談を行う。	希望者に栄養相談を行い、保護者の育児不安軽減のための支援を行った。	相談数(1歳6か月児健診) 435人(電話1人) (3歳児健診) 116人(電話1人)	B	相談内容が多岐に渡るため、細やかで柔軟な対応が求められる。	執務者の情報共有を行い、保護者の不安を軽減できるよう支援する。	・市川市子ども・子育て支援事業計画 ・市川市健康増進計画 健康いちかわ21（第2次）
4	こども家庭相談課	栄養相談	妊婦、乳幼児から高齢者まで食生活、栄養に関する相談を電話、窓口等で実施する。	妊婦、乳幼児を中心とした子育て世帯の相談を実施し、不安軽減のための支援を行った。	相談数 電話201人、来所132人	B	相談内容が多岐に渡るため、細やかで柔軟な対応が求められる。	市民が気軽に相談できる場があることを情報の発信をするとともに、不安を軽減できるよう支援する。	・市川市子ども・子育て支援事業計画 ・市川市健康増進計画 健康いちかわ21（第2次）
	健康支援課			疾病予防の食事等に関する相談を行い、不安の軽減を図った。	相談数 電話40人、来所21人	B	電話や来所での栄養相談が出来ることを知らない方も多いため、周知を行う必要がある。	HPや講座、配布資料に栄養相談を行っている旨を記載するなどで周知をしていく。	・市川市健康増進計画 健康いちかわ21（第2次）
5	健康支援課	生活習慣改善講座	生活習慣病予防の観点から、食事や運動を含めた健康的な生活習慣について知識を深め改善に役立てる。	高血圧予防の食事について講義を行った。	2回32人	B	65歳以上の参加者が多いが、予防の観点から若年層への啓発も必要。	若年層へのPRの強化する。	・市川市健康増進計画 健康いちかわ21（第2次）

(2) 保育園、幼稚園、学校等における食を通じた健全育成

No.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R5年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
6	幼保施設管理課	食育指導計画の作成及び実施	保育所保育指針、学校指導要領に基づいて「食育指導計画」を作成し、教育課程、保育の一環に組み込んだ取組を行う。	各園食育計画を作成し、その計画通り実施していく	コロナ禍で実施がなかなかできなかった計画を少しづづコロナ以前に戻すことができた。	B	コロナ禍以前の状況に戻すのに時間がかかる。	縮小していた内容を取り戻していく	
	保健体育課			食に関する指導の全体計画①②を作成し、計画に基づき各校で取り組んだ。	小学校38校、中学校15校、義務教育学校1校、特別支援学校1校で実施。	B	計画どおりにできているのか、途中で見直し等が必要である。	継続	
7	幼保施設管理課	保育園、学校における給食管理	旬の素材や地場産物の活用、行事食や郷土料理、バイキング給食、各国の料理、カミカミ献立等、手作りで栄養バランスのとれた特色ある献立を作成。	献立作成等は引き続き今まで通り。バイキング給食等は少しづつ再開	前年度まで中止していた取り込みを少しづつ実施することができた	B	年間通して、平均して計画していく	継続的に実施していく	
	保健体育課			行事食・郷土料理・旬の食材や地場産物を活用した献立を提供した。	小学校38校、中学校15校、義務教育学校1校、特別支援学校1校で実施。	B	栄養士によって、取り組みに差が出ないよう研修会で紹介、周知する等の対応が必要。	継続	
8	幼保施設管理課	保育活動を通じた食育の取り組み	保育士等と連携し、野菜の栽培や収穫、クッキング保育、野菜の皮むき体験、ごっこ遊び、パネルシアターなどの保育活動を通じて様々な食に触れ、関わることで望ましい食習慣の育成を図る。	野菜の栽培や収穫、クッキング保育、野菜の皮むき体験等、様々な取り組みを実施できた。	各園ごと次年度に比べ、様々な食育に保育士と連携を取り進めることができた。	A	年間通して、平均して計画していく	継続的に実施していく	
9	保健体育課	栄養教諭・学校栄養職員による食に関する指導	給食を生きた教材として活用し、関連教科と連携した食育に関する授業を推進する。	給食を教材として活用し、教科と連携した授業の取り組んだ。	給食室のある学校46校において、実施した。	B	栄養士によって、取り組みに差が出ないよう研修会で紹介、周知する等の対応が必要。	継続	
10	幼保施設管理課	保育園、学校給食の広報活動	給食だより、献立表の配布や、給食試食会、給食展示を活用し、家庭への啓発を図る。	事業内容についてはすべて実施できた。給食レシピの動画撮影も継続して行った。	給食試食会も再開し、保護者の方への給食アピールも今まで以上にできた。	A	時間をかけて作成している給食レシピ紹介の動画配信の閲覧数が伸び悩んでいる	事業内容は継続していく中で、関係機関と連携して動画配信の閲覧数を延ばしていく	
	保健体育課			献立表、給食だよりの配付、給食試食会を実施し家庭への啓発を図った。	小学校38校、中学校15校、義務教育学校1校、特別支援学校1校で実施。	B	栄養士によって、取り組みに差が出ないよう研修会で紹介、周知する等の対応が必要。	継続	
11	幼保施設管理課	アレルギー相談	家庭と連携して、アレルギーに配慮した給食を提供する。	アレルギー児の人数は減少傾向にあるものの、誤食など事故が起きないよう十分注意して進め	事故等なく、アレルギー給食の提供ができた。	A	誤食等が起きないよう、職員間で情報共有しながら進めていく	アレルギー児の人数は減少傾向にあるものの、誤食など事故が起きないよう十分注意して進める	
	保健体育課			食物アレルギー対応の手引きに基づき、アレルギーに配慮した給食提供を行った。	小学校38校、中学校15校、義務教育学校1校、特別支援学校1校で実施。	B	栄養士によって、取り組みに差が出ないよう研修会で紹介、周知する等の対応が必要。	継続	
12	保健体育課	ヘルシースクール推進事業	子ども達が健康について自ら考え、望ましい生活習慣を確立するため、小児生活習慣病予防健診(すこやか検診身体測定、血液検査、すこやか歯科検診咬合力、唾液検査、食事調査等)を実施する。	小学校5年生、中学1年生の前年度有所見者の受診希望者に、血液検査の実施を行い、有所見者に対し、事後指導(要医療・健康相談等)を勧めた。	小学校5年生受信者2332人、	B	個々に課題が異なるので、よりきめ細やかな対応が求められる	継続	

(3) 地域における食を通じた交流の促進

No.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R5年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
13	健康支援課	食生活サポーターの活動支援	食生活改善に関する普及啓発と健康に対する意識を高めるため、地域において食生活の相談窓口の役割を担う。また、おとなの食育講習会、おやこの食育講習会等を開催し、健康づくりのための食育の啓発を行う。	食生活サポーター実施のおやこの食育講習会での調理実習、離乳食教室の運営補助等の再開があり、活動支援数が増加した。	101回3298人(食生活サポーターと共に食育活動を実施)	B	地区により食生活サポーターの人数にばらつきがあり、地区活動数が少ない。	食生活サポーターの地区人数の調整を行い、地区活動につなげる。	
14	健康支援課	低栄養に向けた取組	低栄養予防の講習会や教室等で講話や相談を行う。	依頼事業にて低栄養予防の講話を実施。食生活サポーターと共に買い物不便地域における移動販売にてレシピを配布した。	依頼事業:6回108人 移動販売:8回111人	B	移動販売では、レシピだけではなく、低栄養予防の食事のポイント等を掲載した資料を配布していく。		

\*第4次市川市食育推進計画掲載事業 調査票 (令和5年度実績)

基本目標2 食文化継承と食の循環・環境を理解し実践する

(1) 伝統的な食文化の継承

NO.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R5年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
15	健康支援課	日本の食文化や郷土料理の継承	市民まつり、農水産まつり等のイベントや講習会で郷土料理の紹介、体験を行う。また、行事食の由来や季節の食材を利用したレシピをSNS等で発信する。	行事食の由来や季節の食材を利用したレシピをSNS等で発信した。魚のさばき方教室では郷土料理についてお伝えし、試食も行った。	SNS更新6回:平均閲覧数約7000回 魚のさばき方教室で「いわしのつみれ汁」を参加者に試食してもらうことで郷土料理を味わってもらった。	A	SNS閲覧数を増やすため、レシピをアップする等の工夫が必要である。	行事食や季節の食材に関して発信する時はレシピも含めて発信を行っていく。	
16	幼保施設管理課	給食における行事食、郷土料理の導入	給食の献立に行事食、郷土料理を取り入れ、食文化への理解を深めていく。また旬の素材を活かした季節感ある献立を実施し、給食だより、献立等で保護者に啓発する。	七五三・冬至・おせち料理（もどき）・祭り寿司・ひな祭り等行事食を給食献立の中に組み込んで実施した。	行事の意味など子どもたちにも伝えていくことができた。	A	行事食等、保護者へのアピールが足りなかつた。	継続して実施していく。	
	保健体育課			行事食や郷土料理を取り入れ、食文化の理解を深めた。また、献立表や給食だよりを発行し、保護者に啓発した。	児童生徒が実際に、給食で行事食や郷土料理を食べることにより、食文化に対する理解を深めることができた。	B	更に理解を深めるには、どうはたらきかけたらよいのか。	継続	

(2) 地産地消の推進

No.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R5年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
17	保健体育課	学校給食における地場産物の導入	梨や生ノリを給食に提供し、市川の農水産物の普及を図る。また11月の千産千消デー、1月の学校給食週間に千葉県産の食材を使った給食を実施する。	市川の農産物である「梨」や「海苔」を給食で提供し、市川の農水産物の普及を図った。また、11月の千産千消デーや1月の学校給食週間に千葉県や市川市の食材を使用した給食を実施した。	梨をそのままデザートとして、または料理に使用して提供した。海苔は、1月24日～30日の学校給食週間に合わせて、54校で調理し提供した。	B	地産地消のPR継続	継続	
	臨海整備課			1月の学校給食週間ににおいて、生ノリ及び板ノリを市立小中学校、義務教育学校、特別支援学校に提供	生ノリ155kg、板ノリ14,580枚を54校に提供	A		今後も学校に提供を行い、子どもたちへの市川産水産物の普及を図る。	
18	農業振興課	体験農園事業（市民農園、ふれあい農園）	農作業体験を通して農業への楽しさや親しさ、収穫の喜びや食べ物を大切にする心を醸成するとともに、都市農業への理解を深める。	市民農園、ふれあい農園、おうちでちよこっと菜園を実施。	公設市民農園:5ha所運営 民設市民農園:20ha所運営 ふれあい農園:50組参加 おうちでちよこっと菜園:50組参加	B	市民農園:市民の需要に対し、区画の供給が間に合っていない。また、人員不足により現在よりも多くの公設市民農園を運営することができないため、公設市民農園の数を増やすことができない。	荒廃農地などの管理が難しくなった農地の地権者に対し、民設市民農園として管理する方法を案内することで公設市民農園の代わりに民設市民農園の数を増やす。また、市民農園開設の際に活用できる補助金があることを案内することで民設市民農園開設を促す。	第2次いちかわ都市農業振興プラン
19	臨海整備課	魚食文化フォーラム実行委員会との協働によるイベント開催	生産者・消費者・小売業者から成る魚食文化フォーラム実行委員会を組織し、ノリすき体験、魚のさばき方教室、市内小学校での出前授業を開催。市内水産業の振興と水産物の消費拡大を図る。	・いちかわ三番瀬まつりの開催(10月) ・魚のさばき方教室の開催(2月) ・ノリ漉き体験学習への支援(ノリ漉き台の貸出) 6団体に貸出	・いちかわ三番瀬まつりの開催 約1000人来場 ・魚のさばき方教室の開催 11人参加 ・ノリ漉き体験学習への支援(ノリ漉き台の貸出) 6団体に貸出	B	・コロナ禍前まで開催されていた小学校でのノリ漉き体験について、講師の高齢化等の課題を解消し、継続的に実施する方法を検討する必要がある。	イベントの開催等を通じて、広く市民に對して市川市の水産業の普及を図る。	
20	農業振興課	農水産イベント開催や直売所等でのPR	農水産まつり、いちかわ産フェスタ、「市川のなし」フェア、「市川とまと」フェア等でのイベント、スズキや生ノリの販売会といった機会や、直売所、道の駅いちかわを活用して地場産物のPRを行う。	「市川のやさい」フェア、「市川のなし」フェア、市川産花の展示会、いちかわ農水産まつり等のイベントを実施。	イベント実施日「市川のやさい」フェア:5/27(土) 「市川のなし」フェア:8/5(土), 8/10(土) 市川産花の展示会:11/23(木)～11/29(水) いちかわ農水産まつり:12/9(土)	B	PRにより農産物の周知はしているものの、直売所等では販売の際、需要に對して、農産物の供給が間に合っていない。	市川市は都市であり、農地として利用できる範囲が限られる中、農家さんの所得向上を図り、農作物の量ではなく、農作物自体の価値を高めるPRを行う。	第2次いちかわ都市農業振興プラン
	臨海整備課			・鮮魚店でのスズキ販売(6月) ・農水産まつりでのホンビノス貝販売(12月) ・鮮魚店及び行徳支所での生ノリ販売(1月)	・鮮魚店でのスズキ販売 30.1kg販売 ・農水産まつりでのホンビノス貝販売 約102kg販売 ・鮮魚店及び行徳支所での生ノリ販売 約180kg販売	A		今後も販売会を通じて、普段味わうことの少ない市川産水産物を市民が食べることの出来る機会を創出する。	
21	保健体育課	保育園、学校での農業体験	保育活動の中で野菜の栽培・収穫体験や、学校の授業で梨の選果場見学、農漁業体験を行う。	主に小学校において、野菜の栽培や収穫体験を行った。また、小学3年生は、市内見学として梨園や選果場を見学した。	小学校では、野菜の栽培から収穫までを学習し、食べ物に対し興味関心を持たせていた。梨園や選果場を見学した。	B	栽培中の一時的な興味関心になってしまってしまうので、継続させるにはどうしたらよいのか。	継続	
	幼保施設管理課			各園ごと園庭やプランターにて野菜の栽培、収穫を実施した。	野菜の栽培、収穫を体験し、給食や家庭へ持ち帰り食することができた。	A	継続的に実施するとともに、新しい野菜等にもチャレンジしていく	継続して実施していく。	

(3) 環境を意識した食育の推進

No.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R5年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
22	清掃事業課	ごみ発生抑制等啓発事業	小学生対象に食品ロスについて学び、給食を残さず食べる「かしこく・おいしく食べきりチャレンジ」の取り組みを行う。	「かしこく・おいしく食べきりチャレンジ」廃止。代わりに出前授業の実施		D			
	保健体育課			各校において、毎日、給食の残菜を確認し、減少につながるような取り組みを行った。	残菜について確認し、残菜が多い料理については調理方法や味付け方法、提供量等を検討し、残菜を減少させるようにした。	B	残菜が多く残るから、提供しないのではなく、定期的に提供し、食べ慣れることも大切と考える。	継続	
23	清掃事業課	生ごみ減量への啓発	家庭から出される生ごみ減量のために、必要な量だけ購入する、食材を無駄にしない料理の普及など、食品廃棄を減らす取り組みを行う。	10月の食品ロス削減月間を中心にパネル展などの周知をおこなった。		B	市民が理解やすいデザインや表現方法の探求	デザインの再制作やデジタル媒体の活用促進	
	健康支援課								
24	清掃事業課	フードドライブ事業	ご家庭で余っている未開封の食品などをフードドライブによって集める活動を行う。集めた食品は市川市社会福祉協議会が行う「いちかわフードバンク」へ提供し、こども食堂等で活用する。	・市内8店舗ファミリーマート(常時) ・イベント等でのフードドライブ実施	5499点の食品が集まった。	B	周知の強化	デジタル媒体を用いた周知の強化	
25	農業振興課	減農業栽培推進事業	環境にやさしい農業の推進事業として、梨栽培における農薬散布回数を削減し、より安全な農産物の生産と品質向上につなげる。	梨栽培において、農薬散布回数を軽減できる各種資材の導入を促進し、環境にやさしい農業を推進した。	JAIいちかわ果樹部会に1,599千円交付。	B	JAIいちかわ果樹部会にしか補助金を交付していない。	野菜部会、花き部会にも補助金を活用していただけるように周知する。	第2次いちかわ都市農業振興プラン
26	清掃事業課	ごみ発生抑制等啓発事業	小学校等へ出向き、食品ロスを含むごみの削減についての出前授業を行う。	実際にごみ収集車を展示するなどして、ごみの問題について意識を高めてもらった。	計15回(小学校9回、その他6回)	B	啓発先にばらつきがあるため、幅広い世代に向けた啓発が必要。	動画やごみ分別アプリなどのデジタル媒体の活用促進	

\*第4次市川市食育推進計画掲載事業 調査票 (令和5年度実績)

基本目標3 食育推進運動の展開と推進体制の充実を図る

(1) 食育の効果的な普及啓発

NO.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R5年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
27	食育関係課(7課)	市公式Webサイト「いちかわの食育」	食育に関する情報を効果的に発信するとともに、料理レシピ掲載や食の安心・安全などの役立つ情報を定期的に発信する。	給食で人気のレシピを動画撮影し、ホームページに掲載して誰でもアクセスできるような取り組みをした。 食の安心・安全のページに国や県のホームページをリンクさせた。	保育園の保護者には、レシピの掲示等もして興味を持ち取り組んでくれた人もいた。 イベント等で出会うことができない方へも啓発ができた。	B B	時間をかけて取り組んでいるが、動画のアクセス回数がなかなか増えない。 アクセス回数が少ない。	テーマを変更して、継続 既存ページの更新、新たなページの作成。	
28	食育関係課(7課)	食育月間及び食育の日による普及啓発	6月の食育月間及び「毎月19日は食育の日」を、広報紙、懸垂幕、デジタルサイネージ等で広く周知する。	小学校1年生全員に食育シール配付を行った。 広報の6月食育特集に保育園にも協力してもらい、写真や記事の掲載。また、19日を食育の日として園児に周知。 広報6月1日号に「食べて健康子どもから大人まで年代別に食事のポイントをご紹介」というテーマ掲載。懸垂幕、デジタルサイネージ、公用車に食育マグネット貼付走行、食育展示実施。	小学1年生 3529名へ配付。 食育月間や食育の日の周知は十分できた。	B A A	児童に、興味関心を持たせるためには、効果的な説明があるとよい 特になし 食育マグネットは車両への影響等もあるため、他の啓発方法も考える必要がある。	現状維持 広報特集号など、今後も継続して作成 市民の目を引くような、広報や掲示内容を考えていく。	
29	食育関係課(7課)	市民まつり等イベントにおける食育活動	食と健康に関する関係部局、関係機関、団体の連携・協働により、食育の啓発を行う。	市民まつりで食生活サポーターと和洋女子大学がどなりのブースで食育の啓発を行った。	食生活サポーター啓発物914部	B	他事業が重なり、同イベントに出演することが難しいことがある。	食と健康に関する関係部局、関係機関、団体が近くのブースで行えるよう働きかける。	
30	食育関係課(7課)	食育講演会の開催	食育の実践につなげるため、食の専門家を招き講演会を実施する。同時に、「いちかわの食育」に関する展示を行い食育の普及・啓発を図る。	講演会については、案内のポスターを各保育園で掲示。展示スペースには「保育園で人気のレシピ」を展示紹介 料理研究家の島本美由紀先生より、「食品ロスが減らせる ラク家事講座」をテーマに講演いただいた。いちかわの食育展示も実施。	当日参加していないため、成果や実績の把握ができない 参加者86名	B A	より多くの市民が参加できる講演会の企画 市民が食育への関心を深め、理解し、実践につなげるられるような内容の講演を行う講師の選定。	展示紹介だけではなく、配布物等の作成にも取り組んでいくのかどうか? 多くの方に参加いただけるよう、PRを強化する。	
31	食育関係課(7課)	商業施設等における情報提供	スーパーの食品売り場やカフェスペースを活用し、適塩レシピの紹介や「いちかわの食育」に関する情報を提供する。	食生活サポーターと共に、移動販売を活用する方へレシピ等を配布した。	8会場111名へ配布	B	移動販売を活用する方の中には、調理を行わない方もおり、レシピは不要という声もあった。	移動販売では、レシピ以外の啓発資料も配布する。他のイベント等の企画も行う。	

(2) 食の安全・安心に関する知識の普及

No.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R5年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
32	健康支援課	食品表示に関する情報提供	食品表示の見方や知識、理解を深めるため、ホームページや講習会等で食品表示に関する情報提供を行う。	食品の安全性に関するHPを作成し、県や関係府省庁の情報提供を行った。	平均閲覧数:月14回	B	県や国の情報につなげているため、HPの変更や閉鎖時に早急に対応が必要である。	現状維持	

(3) 多様な関係者との連携・協働

No.	所管課	掲載事業名（教室名等）	事業概要	R5年度の取組状況	成果、実績	評価	課題	今後の方向性（次年度に向けて）	関連計画
34	食育関係課(7課)	市川市食育推進関係機関連絡会	各関係機関、団体がそれぞれの立場から食育の取り組みを進めるとともに、連携を強化し、総合的かつ効果的な食育を推進する。	第4次市川市食育推進計画、市民アンケート結果について情報交換を行った。また、農業協同組合より事例発表を行っていただいた。食育展示では、関係機関の取組も紹介した。	連絡会では、関係機関より食育についての意見をいただけた。展示では、関係機関の食育の取組も周知することができた。	B	関係機関との連携強化。	食育の推進についての情報共有、関係機関と連携、協力を強化する。	
35	食育関係課(7課)	庁内食育関係課会議	国や県の取組と連動した効果的な食育の普及啓発や、本市の継続的な食育推進を図るため、関係部局が連携して食育を推進する。	年間5回の会議を実施し、食育の推進について意見交換を行った。	関係課と連携し市民へ食育の啓発を行った。	B	新たな連携事業の実施。	会議にて意見情報交換し、連携、協力して、食育の推進を行う。	
36	食育関係課(7課)	大学、企業等と連携した取り組み	若い世代、働く世代への推進を図るため、市内大学、商業施設等と連携した取り組みを実施する。	農水産まつりで和洋女子大学が芋煮販売を行った。	市民が農水産物に関心を持ち、地産地消について理解できるよう、啓発した。	B	若い世代、働く世代が興味を持つようなイベントの実施。	商業施設等での連携事業の実施。	